令和2年度

春日市教育委員会事務事業点検評価報告書

令 和 ３ 年 １ ０ 月

春日市教育委員会

目次

第１　点検評価の趣旨 － 2 －
第２　点検評価の方法 － 3 －
第３　令和2年度エデュケーションかすが － 3 －
第４　「令和2年度エデュケーションかすが」に基づく点検評価 － 7 －
　１　施策の達成度一覧表 － 7 －
　２　個別の評価結果 － 9 －
　1　学校教育の充実 － 9 －
　　■大項目［1］きめ細やかな指導・推進体制 － 9 －
　　■大項目［2］心と体づくり － 16 －
　　■大項目［3］安全・安心の環境づくり － 19 －
　2　社会教育・学びの推進・充実 － 20 －
　　■大項目［1］学校・家庭・地域の「共育」基盤づくり － 20 －
　　■大項目［2］読書のまちづくり － 31 －
　3　文化財の保護・教育資産としての活用促進 － 35 －
　　■大項目［1］文化財保護による次世代への継承 － 35 －
　　■大項目［2］文化財の活用 － 37 －
　4　教育環境づくりの推進 － 39 －
　　■大項目［1］児童生徒への個別支援 － 39 －
　　■大項目［2］安全で快適な空間の創造 － 41 －
第５　令和2年度コミュニティ・スクール進捗状況評価 － 43 －
　１　評価の目的 － 43 －
　２　評価方法 － 43 －
　３　評価結果の算出方法 － 44 －
　４　評価結果表 － 45 －
　５　評価結果の考察 － 49 －
　６　今後のコミュニティ・スクール充実発展に向けて － 51 －
第６　教育委員から出された主な意見 － 52 －
第７　学識経験者意見 － 53 －
資料（令和2年度春日市教育委員会の活動状況）－ 54 －
　１　教育委員会の構成（教育長及び教育委員会委員）－ 54 －
　２　教育委員会の会議の開催状況 － 54 －
　３　教育委員懇談会の開催状況 － 56 －
　４　春日市総合教育会議の開催状況 － 56 －

第１　点検評価の趣旨

春日市教育委員会事務事業点検評価（以下「点検評価」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき、教育委員会が、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うものです。点検評価の趣旨は次の二点です。

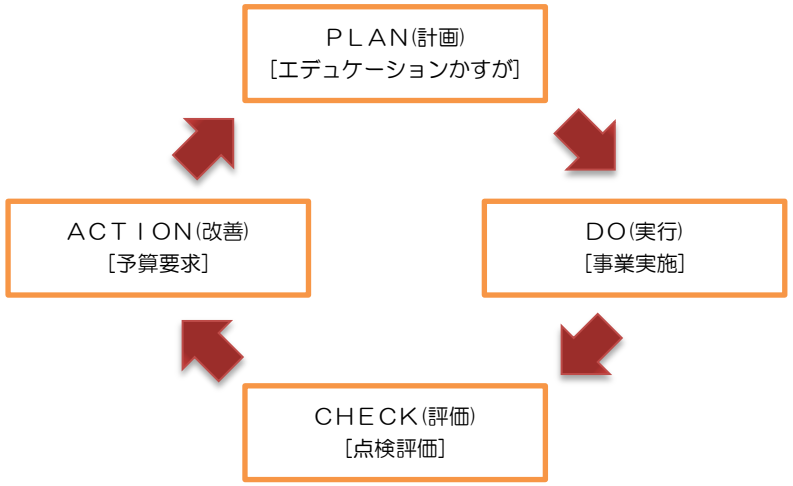
１　公表による教育行政への理解の促進

点検評価報告書を市議会に提出するとともに市民に公表することにより、市民の教育行政に対する理解を深めることを目的とします。

２　ＰＤＣＡサイクルによる効果的な教育行政の推進

点検評価を春日市教育委員会のＰＤＣＡサイクルの「ＣＨＥＣＫ（評価）」に位置付けます。点検評価を行うことで現状把握及び課題抽出を行い、点検評価の結果を次回（令和4年度）の当初予算編成及び年間計画（エデュケーションかすが）作成につなげていくことで、ＰＤＣＡサイクルによる効果的な教育行政を推進します。

【春日市教育委員会のＰＤＣＡサイクル】



※ＰＤＣＡサイクルとは、
「Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）」の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する手法です。

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

第２　点検評価の方法

点検評価は以下の二種類の評価について教育委員会事務局で報告書の事務局案を作成し、これを教育委員懇談会において教育委員と事務局で協議することで情報及び課題の共有を図り、協議内容を反映して教育委員会としての点検評価報告書としてまとめるという方法で行いました。

1　「令和2年度エデュケーションかすが」に基づく点検評価

春日市教育委員会の単年度計画である「令和2年度エデュケーションかすが」の体系区分に沿って、教育施策の具体的な取組状況を振り返り、その成果と課題(方向)を明らかにするとともに、施策の達成度について自己評価を行いました。

また、次年度以降の改善に結び付けやすいように、評価の対象年度である令和2年度の取組状況だけでなく、現在(令和3年度)の取組状況を併記しました。

施策の達成度は、施策の「小項目」ごと(小項目が一つしかないものは中項目ごと)に次の4段階で評価し、上位の項目の達成度は、下位の項目の達成度の平均値(小数点第二位を四捨五入)で算出しました。

4：十分な成果が見られる。　3：一定の成果が見られる。　2：成果が不十分である。　1：成果が見られない又は未実施。

2　令和2年度コミュニティ・スクール進捗状況評価

各小中学校で実施した「令和2年度コミュニティ・スクール進捗状況評価」について評価結果をとりまとめ、全体的な傾向及び大項目ごとに見た傾向を分析し、今後のコミュニティ・スクールの充実発展に望まれることを明らかにしました。

第３　令和2年度エデュケーションかすが

1　作成趣旨

「エデュケーションかすが」は、小中学校の全保護者、教職員、自治会、市議会、市外からの視察者等への説明資料として、1枚で春日市の教育の全体像及び体系が説明できるように事業レベルまで記載したリーフレットです。作成部数は14,500部で、主な配付部数は、保護者11,000部、教職員900部、自治会800部です。

2　位置付け

「エデュケーションかすが」は、5か年計画である春日市教育振興基本計画(平成28年度～令和2年度)に基づく1年間の単年度計画として位置付けています。

また、春日市教育委員会のＰＤＣＡサイクルの「ＰＬＡＮ(計画)」に位置付け、これに基づき事業を実施しました。

【令和2年度エデュケーションかすが　表紙】

【令和2年度エデュケーションかすが　本文】

2 社会教育・学びの推進・充実【地域教育課】

[1] 学校・家庭・地域の「共育」基盤づくり

(1) コミュニティ・スクールの推進
①熟議を通した学校運営協議会の充実
②事業目標を共有し、PDCAサイクルを重視した学校運営協議会や実働推進組織、部伍会等の実施
③地域連携カリキュラム(教育課程内外の教育活動)の整備・取組の充実、地域コーディネーター活用
◇地域コーディネーター配置校の拡大
④四者(学校、家庭、地域、児童生徒)によるコミュニティ・スクールの目的、仕組み、活動等の共有化

(2) 家庭教育力の向上
①家庭教育に関する学習機会の提供と参加促進
◆家庭教育学級(通常講座、公開講座)
◆入学説明会での子育て講演会
②学校や地域に貢献できる人材の育成
◆PTAの学びのための支援と連携
◆家庭教育学級の充実
③睡眠教育(眠育)の推進
◆モデル校による試行実施
◇眠育公開講座

(3) 地域教育力の活性化
①子どもの体験活動の場、居場所づくりの支援
◆放課後子供教室(アンビシャス広場)
◆地域で子どもを育てる交流会
②地域の青少年育成活動の支援
◆子ども会活動のリーダー育成
◆六中サミット研修会、発表会
◆自治会との情報共有・連携

(4) 学びの場づくりの推進
①青少年の感性を磨く機会の提供
◆弥生の里児童画大賞展
◆実行委員会形式による成人式
◆学べる天文台「星の館」
②学びの循環による地域人材の育成
◆実践につなぐ地域活動学習講座
③学びの循環による市民活動の機会の拡充
◆社会教育関係団体等への支援

[2] 読書のまちづくり

(1) 生涯の学びとくらしに役立つ図書館づくりの促進
①課題解決型図書館としての機能の充実
◆地域資料のデジタル化
◆図書館活用講座
②誰もが図書館サービスを受けられる環境整備
◇視覚障がい者等の図書館利用に係る体制整備
◆移動図書館たんぽぽ号の運行(19か所)
③ボランティアとの連携
◆図書館サポーターによる図書館支援活動
◆夜の図書館

(2) 子どもの読書活動の推進
①市民図書館による子どもの読書活動の推進
◇図書館クラブ
◆春日市図書館を使った調べる学習コンクール、講座実施
◆ファーストブック事業
◆年齢別おはなし会
◆読書ボランティア講座
②学校図書館の読書センター、学習センター、情報センター機能の充実
◇学校図書館教育全体計画の充実
◇学校司書の勤務日拡充(小学校)・学校図書館支援員配置(中学校)
◇児童生徒が親しめる学校図書館の環境整備の推進
◆読書ボランティアによる小学校での読み聞かせ

六中サミット研修会

3 文化財の保護・教育資産としての活用促進【文化財課】

[1] 文化財保護による次世代への継承

(1) 文化財情報の収集及び記録保存のための調査等の実施
①埋蔵文化財の調査と記録の作成
◇特別史跡水城跡(大土居西側土塁等)の確認調査
◇史跡須玖岡本遺跡(岡本地区)の確認調査
◆遺跡発掘調査及び報告書作成
②民俗文化財の情報収集
◆民俗文化財調査専門員による聴き取り調査
◆民具、古文書等の情報収集

(2) 文化財の保存・管理
◆文化財の市指定化の推進
◆文化財専門委員による指導・助言の活用

わくわく歴史体験(土器をやく)

[2] 文化財の活用

(1) 春日市の文化財に対する理解の促進
①文化財等の周知
◇市指定化記念展示(須玖岡本遺跡・須玖タカウタ遺跡遺物)
◆奴国の丘フェスタ
◆市報、ウェブサイト等
◆各種啓発パンフレット等の作成・活用
◆市内商工店会、JR等と連携したPR
②文化財への関心を高める機会の提供
◆考古・民俗企画展、わくわく歴史体験、やきもの作り教室、ブラかすが歴史散歩
◆学習支援(見学・体験)
◆歴史文化を学ぶ遺跡見学
◆地域への出前講座
◆ガイド・やきものボランティア等との協働

(2) 遺跡、文化財施設等の活用促進のための整備
◇天神山水城跡樹木伐採
◆史跡地の樹木管理等

4 教育環境づくりの推進【教務課・学校教育課・地域教育課・文化財課】

[1] 児童生徒への個別支援

(1) 家庭環境に応じた就学、子育て支援
◆就学援助制度の円滑な実施

(2) 教育と保健・福祉の一体的な支援
◇就学相談の福祉との窓口一本化
◆要保護児童対策地域協議会との連携強化

(3) 子どもの実態に応じた学習・登校支援
①基礎学力の定着
◆各学校ごとの放課後補充学習「まなびや春日」
②教育支援センター・スマイルルームの充実
◆学力・進路保障に向けた教科指導等の個別支援の強化
③通級指導教室の充実
◆通級指導教室の指導環境の整備
④日本語指導が必要な児童生徒への支援
◆日本語指導補助員の配置とその活用

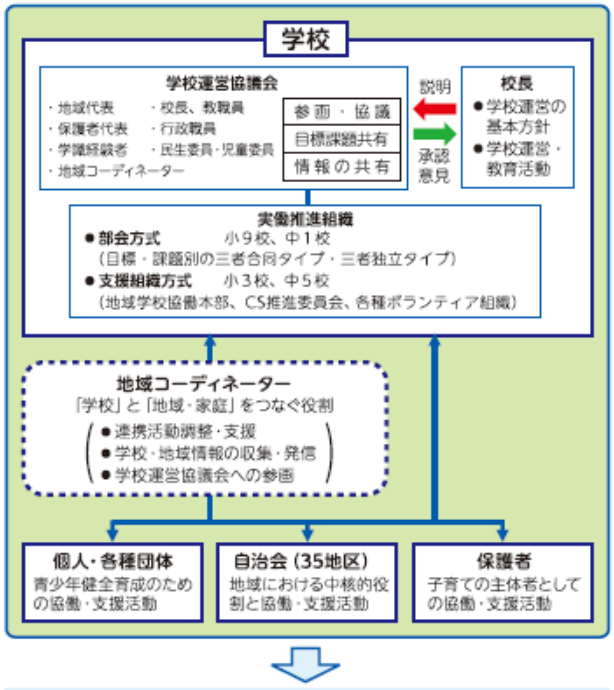
[2] 安全で快適な空間の創造

(1) 学校施設改修の計画的推進
◇小中学校8校トイレ改修工事
◇小学校5校遊具改修工事
◆春日北小学校管理棟大規模改修工事
◆大谷小学校屋内運動場及び給食室大規模改修工事
◆天神山小学校管理棟大規模改修工事
◆春日南中学校校舎増築工事

(2) 社会教育施設改修の計画的推進
◇奴国の丘歴史資料館の空調設備入替工事及び屋上防水改修工事の設計監理
◆星の館、奴国の丘歴史資料館等の維持管理

【令和2年度エデュケーションかすが　裏表紙】

【春日市のコミュニティ・スクール推進の全体の仕組み】



地域による
中学生への学習支援

中学生による地域貢献
市クリーン作戦

取組例（春日市の小中学校は全てコミュニティ・スクール）

春日中学校ブロック	■小中合同あいさつ運動 ■SC、SSWを活用した連携強化 ■小中連携推進会議（学力・心・体力・特別支援） ■新入生生徒会交流会	春日中学校 ［校区］春日小、須玖小	春日小学校 ［地区］昇町、小倉	須玖小学校 ［地区］須玖南、弥生
		●厳え育む教育 ●学校生活の基盤づくり「レディネス・タイム」 ●地域貢献活動 ●福岡女学院大学との連携 ●CSS(ｺﾐｭﾆﾃｨ･ｽｸｰﾙｽﾀﾃﾞｨ)(自学～廊下)	●教育ボランティア「いきいき先生」 ●自転車教室(おやじの会連携) ●親子お弁当の日、子どもクッキング教室 ●かすがっ子ワイワイまつり	●四者で創るすぐっこまつり、奴国ウォークラリー ●すぐのこサポーター ●地域掲示板、地域行事参加カード ●ライオンズクエスト地域公開授業
春日東中学校ブロック	■家庭学習の充実 ■児童会、生徒会、部伍会活動の充実 ■対人関係育成プログラム実施 ■日常的体力づくりの工夫 ■小小・小中サミット	春日東中学校 ［校区］春日東小、大谷小、春日南小(一部)	春日東小学校 ［地区］千歳町、光町、春日、宝町、若葉台西、若葉台東	大谷小学校 ［地区］大和町、大谷、小倉東
		●学校生活の基盤づくり「晴動雨読」 ●「サクセスノート」による家庭学習 ●地域に還す部伍会貢献活動 ●地域を生かす高校・大学連携授業 ●大人参加型授業「東中塾」 ●CSS(自学～廊下)	●各自治会主催公民館サマー寺子屋 ●運動会コミュニティ種目参加促進 ●地域とつなぐ部伍会活動 ●わくわくカード活用地域行事参加促進 ●東っ子ノートの活用	●児童、教員、家庭、地域四者で創るCS ●「我が家の目標」「チャレンジカード」を進める谷っ子ノート ●部伍会活動による地域行事への参加・参画促進
春日西中学校ブロック	■「家庭学習のすすめ」配付 ■拡大教育相談委員会 ■WBC合同防災訓練（引渡訓練） ■小小連携・小中連携事業（部活動体験、出前授業） ■小中合同あいさつ運動	春日西中学校 ［校区］春日西小、白水小	春日西小学校 ［地区］上白水、下白水北、下白水南、泉	白水小学校 ［地区］上白水、白水ヶ丘
		●西中地域生徒ボランティア ●地域情報誌作成・配布「Nebula」 ●おやパト(夜間パトロール) ●地域、大学との連携事業 ●CSS（自学～廊下）、土曜華雲塾、夏休み公民館学習による学力補充	●「三者連動カリキュラム」による系統的、継続的な連携授業の展開 ●親子で生活・学習習慣を身につける「元気もりもりカード」 ●各自治会主催公民館サマー寺子屋、ウィンター寺子屋	●異学年チームプロジェクト ●白水っ子チャレンジテスト、はなまる先生復習期間による基礎基本の定着 ●地域の良さを知る「地域連携カリキュラム」 ●地域・保護者と連携したキャリア教育
春日南中学校ブロック	［A(Active)プロジェクト］ ■家庭学習定着週間 ■小中合同公開授業 ［K(Kind)プロジェクト］ ■中学校1日体験 ［B(Build)プロジェクト］ ■地域行事への積極的参加	春日南中学校 ［校区］春日南小（一部）、天神山小	春日南小学校 ［地区］ちくし台、大土居、紅葉ヶ丘、旅利、春日、家原台	天神山小学校 ［地区］天神山、白水池、松ヶ丘
		［地域に還す・地域を学ぶ］ ●CS推進委員会 ●自治会集会 ●地域貢献活動 ［地域を生かす・地域と学ぶ］ ●なんちゅうカレッジ	●本のプレゼント広場 ●家読 ●南っ子お手伝い・挨拶宣言 ●早寝・早起・朝ご飯運動 ●交通安全クイズ ●南っ子体操	［四者連携・協働によるふれあい行事］ ●ふれあい愛校作業 ●ふれあい運動会 ●ふれあい学習報告会 ●ふれあい公民館学習 ●わんぱくウォーク(健康タイム)
春日野中学校ブロック	■家庭学習のすすめ ■小中合同あいさつ運動 ■地域カレンダー作成 ■中1ギャップを生まない小中交流会 ■中学生の小学校行事参加	春日野中学校 ［校区］春日原小、春日野小、春日南小（一部）	春日原小学校 ［地区］春日原、春日原南	春日野小学校 ［地区］春日公園、平田台、春日
		●生徒部伍会地域貢献・還元活動 ●地域から学ぶ伝統文化、子育てサロン ●「の中応援団」主催の授業・カチ歩き（学校～太宰府天満宮） ●九州大学留学生との交流活動 ●学舎かすがの	●たてわり活動プロジェクト（ポイントラリー、挨拶運動、炊飯活動等） ●PTA主催ばるっ子まつり ●おやじの会主催ばるっこ米プロジェクト、おやじと遊ぼう	●心を耕す読書活動 ●ファミリー読書リレー、ノーメディアデー、読み聞かせ(月曜朝) ●学校・家庭・地域で取り組む「あいさつ運動」 ●災害時引渡訓練
春日北中学校ブロック	■黙働清掃・挨拶・立腰の習慣化 ■9年間の家庭学習指針による実施 ■合唱、美術等の文化交流 ■小中・小小連携の充実	春日北中学校 ［校区］春日北小、日の出小	春日北小学校 ［地区］桜ヶ丘、岡本、須玖北	日の出小学校 ［地区］日の出町、サン・ビオ
		●スチューデント・コミュニティ（生徒の地域活動・学習） ●系統的キャリア教育（保護者と学ぶ進路学習会、職場体験学習等） ●異学年で取り組む「黙働」清掃 ●CSS(自学～廊下)	●きたっぴい先生学習支援 ●きたっぴい下校、安全マップ作成 ●基礎学力定着を図るチャレンジ検定 ●学校と家庭をつなぐ「きたっこのきろく」	●学校と家庭の連携を深める「日の出っ子ノート」 ●ふれあい合同運動会、ふれあいサンフェスタ(学校・家庭・地域共同) ●「学問のすすめ」による家庭学習定着

※小学校名の下の［地区］は、春日市地区設置規則に定める地区(自治会の区域)を指しており、住居表示上の町名と違う場合があります。

第４　「令和2年度エデュケーションかすが」に基づく点検評価

１　施策の達成度一覧表

施策の達成度は、施策の「小項目」ごと(小項目が一つしかないものは中項目ごと)に次の4段階で評価し、上位の項目の達成度は、下位の項目の達成度の平均値(小数点第二位を四捨五入)で算出しました。

4：十分な成果が見られる。　3：一定の成果が見られる。　2：成果が不十分である。　1：成果が見られない又は未実施。

1　学校教育の充実

大項目	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	担当課
[1]きめ細やかな指導・推進体制	3.7	(1) 確かな学力の向上	4.0	①教職員の指導力向上	4	学校教育課
				②基礎学力の定着	4	
		(2) いじめの防止等の推進	3.0	①いじめの早期発見、早期対応、早期解決	3	
				②学校、家庭、地域、関係機関との協力体制の強化	3	
		(3) 不登校児童生徒の支援	3.7	①教育支援センターによる支援	4	
				②教育支援センターとスマイルルーム(中学校校内教育支援室)の交流	3	
				③専門職による積極的支援	4	
		(4) 特別支援教育の充実	4			
		(5) 新学習指導要領への対応	4			
		(6) 教職員の働き方改革の推進	4			教務課
			3			学校教育課
[2]心と体づくり	3.4	(1) 豊かな心の育成	3.3	①豊かな人間性・市民性の育成	4	
				②チャレンジ精神の育成	3	
				③人権感覚と実践力の向上	3	
		(2) 体力の向上と食育の推進	3.5	①体育・運動を通じた心と体づくり	3	
				②食育を通じた心と体づくり	4	教務課
[3]安全・安心の環境づくり	3.5	(1) 安心して学び、暮らせる環境の整備	4			学校教育課
		(2) 自助意識、安全対応能力の向上	3			

2　社会教育・学びの推進・充実

大項目	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	担当課
[1]学校・家庭・地域の「共育」基盤づくり	3.0	(1) コミュニティ・スクールの推進	4			地域教育課
		(2) 家庭教育力の向上	3.0	①家庭教育に関する学習機会の提供と参加促進	3	
				②学校や地域に貢献できる人材の育成	3	
				③睡眠教育(眠育)の推進	3	
		(3) 地域教育力の活性化	3.5	①子どもの体験活動の場、居場所づくりの支援	4	
				②地域の青少年育成活動の支援	3	
		(4) 学びの場づくりの推進	2.3	①青少年の感性を磨く機会の提供	3	
				②学びの循環による地域人材の育成	1	
				③学びの循環による市民活動の機会の拡充	3	
[2]読書のまちづくり	2.8	(1) 生涯の学びとくらしに役立つ図書館づくりの促進	2.3	①課題解決型図書館としての機能の充実	3	
				②誰もが図書館サービスを受けられる環境整備	3	
				③ボランティアとの連携	1	
		(2) 子どもの読書活動の推進	3.5	①市民図書館による子どもの読書活動の推進	3	
				②学校図書館の読書センター、学習センター、情報センター機能の充実	4	

3　文化財の保護・教育資産としての活用促進

大項目	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	担当課
[1]文化財保護による次世代への継承	3.3	(1) 文化財情報の収集及び記録保存のための調査等の実施	3.0	①埋蔵文化財の調査と記録の作成	3	文化財課
				②民俗文化財の情報収集	3	
		(2) 文化財の保存・管理	4			
[2]文化財の活用	3.3	(1) 春日市の文化財に対する理解の促進	3.5	①文化財等の周知	4	
				②文化財への関心を高める機会の提供	3	
		(2) 遺跡、文化財施設等の活用促進のための整備	3			

4　教育環境づくりの推進

大項目	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	担当課
[1]児童生徒への個別支援	3.3	(1) 家庭環境に応じた就学、子育て支援	3			学校教育課
		(2) 教育と保健・福祉の一体的な支援	3			
		(3) 子どもの実態に応じた学習・登校支援	3.5	①基礎学力の定着	4	
				②教育支援センター・スマイルルームの充実	4	
				③通級指導教室の充実	3	
				④日本語指導が必要な児童生徒への支援	3	
[2]安全で快適な空間の創造	3.7	(1) 学校施設改修の計画的推進	4			教務課
		(2) 社会教育施設改修の計画的推進	3			地域教育課
			4			文化財課

２　個別の評価結果

1　学校教育の充実

■大項目［1］きめ細やかな指導・推進体制

1　施策の達成度(自己評価)　【4：十分な成果が見られる。3：一定の成果が見られる。2：成果が不十分である。1：成果が見られない又は未実施。】

大項目	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	備考(評価の視点、評価指標等)	担当課
［1］きめ細やかな指導・推進体制	3.7	(1) 確かな学力の向上	4.0	①教職員の指導力向上	4	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　3項目中[3]項目実施 ・各学校において設定している学力向上プランについて目標を達成することができた。 ・各学校において、校内研修(主題研究と一般研修)を計画的に実施することができた。	学校教育課
				②基礎学力の定着	4	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　5項目中[5]項目実施 ・小学校6年生30人以下学級編成 ・習熟度別少人数指導、個別指導の充実 ・教育相談員を中心とした放課後等補充学習(まなびや春日)の実施 ・連携による家庭学習の促進	学校教育課
		(2) いじめの防止等の推進	3.0	①いじめの早期発見、早期対応、早期解決	3	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　2項目中[2]項目実施 ・いじめアンケートの活用 ・いじめ基本方針に基づく組織的対応 ・ＳＣ(スクールカウンセラー)、ＳＳＷ(スクールソーシャルワーカー)による校内研修等の実施と教員の危機管理意識向上	学校教育課
				②学校、家庭、地域、関係機関との協力体制の強化	3	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　2項目中[2]項目実施 ・いじめ認知件数の把握 ・いじめ対策関係会議の開催	学校教育課
		(3) 不登校児童生徒の支援	3.7	①教育支援センターによる支援	4	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　5項目中[4]項目実施 ・月例報告、実態調査等による分析及び報告 ・各種研修等の実施 ・体験活動プログラム等による自立・学校復帰支援 ・在宅制による学習支援 ・進路説明会の実施	学校教育課
				②教育支援センターとスマイルルーム(中学校校内教育支援室)の交流	3	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　3項目中[2]項目実施 ・コロナウイルス感染症予防のため、事業に制限があった。 ・スポーツ交流会を通して、教育支援センター及びスマイルルームの交流を図った	学校教育課

				③専門職による積極的支援	4	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　1項目中[1]項目実施 ・小学校には、教育相談員(2校に1名)、中学校には、不登校専任教員(各学校に1名)を配置し、不登校児童生徒への個別対応を実施した。 ・ＳＣ、ＳＳＷを活用し、専門的な見地から児童生徒への関わりを持つことができた。 ・不登校兆候又はその兆しが出現した早期の段階からの対応、効果があった取組の強化等により、不登校数の減少に寄与することができた。	学校教育課
		(4) 特別支援教育の充実	4			●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　5項目中[5]項目実施 ・特別支援教育士を中心に、専門的に特別支援教育を展開した。 ・通級指導教室の利用者及び特別支援学級在籍者に対し、個に応じた教育を行うことができた。 ・子育て支援課と連携し、発達支援室の開設準備を滞りなく進めることができた。	学校教育課
		(5) 新学習指導要領への対応	4			●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　5項目中[3]項目実施 ・市主催ＩＣＴ活用研集会の年3回実施 ・全児童生徒に1人1台のタブレット端末と高速大容量の校内情報通信ネットワークを整備し、Society5.0時代に即したＩＣＴ環境を整えることができた。 ・クロームブックを活用した授業づくりの支援として、G Suite for Educationの研修会を5回開催した。 ・各小中学校で作成した「地域連携カリキュラム」の実施及び令和2年度に向けたカリキュラムの改善・充実 ・小学校5・6年生(外国語科)70時間、小学校3・4年生(外国語活動)70時間、小学校1・2年生(その他：英語活動)12時間実施 ・ＡＬＴ4名、ＪＴＥ6名を各小中学校に配置	学校教育課
		(6) 教職員の働き方改革の推進	4			●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　4項目中[4]項目実施 ・教職員の勤務実態の把握に努め、学校の負担軽減に実効性の高い取組を実施できた。	教務課
			3			●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　2項目中[2]項目実施 ・共同学校事務室を設置することで、学校経営を効率化することができた。 ・部活動指導員を配置することで、部活動指導体制を充実させ、顧問教員の部活動指導に係る負担を軽減することができた。	学校教育課

2　施策の実施状況

中項目(1) 確かな学力の向上

小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
①教職員の指導力向上	◎学力向上コーディネーターを中心とした組織的な学力向上検証サイクルの確立 ◎学力調査結果の検証、授業の改善・充実 ◎ＡＬＴ(外国語指導助手)、ＪＴＥ(外国語活	◆教育課程に応じた各種研修会の実施(年3回程度) ◆外国語活動指導員、ＡＬＴの配置	◎学力向上コーディネーターを中心に組織的な学力向上の取組として、学力向上プランをもとに検証サイクルの確立を図った。 ◎校内研修(主題研究・一般研修)の学力調査の結果を踏まえた授業改善を行った。 ◎英語に関する技能を有するＡＬＴとＪＴＥ	◆学力向上コーディネーターを軸とした組織的な学力向上検証サイクルの確立［5月］ ◆学力調査の検証、授業の改善・充実[4月] ◆ＡＬＴ(外国語指導助手)、ＪＴＥ(外国語活

	動指導員)による授業支援	◆外国語教育推進協議会の実施(年4回) 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆小学校外国語活動オープンスクール(中止) ◆中学校英語スピーチ・暗新型コロナウイルス感染症対応唱大会(中止)	を配置することで、外国語教育における学習指導の充実を図ることができた。 ◎市主催外国語教育推進講議会を実施し、日常の授業改善や指導力向上の取組に生かすことができた。	動指導員)による授業支援[4月から]
小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
②基礎学力の定着	◎わくわく進級テスト(小3～4年算数＋国語) ◎各学校ごとの放課後補充学習「まなびや春日」 ◎小学校6年生30人以下学級編制 ◎習熟度別少人数指導、個別指導 ◎家庭学習促進のための家庭との連携	◆わくわく進級テストの実施 ・基礎・基本の内容　※9月、2月実施 ◆まなびや春日の実施 ・各小学校で詳細を決めて計画的に実施 ◆小学校6年生30人以下学級編成 ・小学校に少人数学校対応講師を配置 ◆各小学校の実態に応じて、学習指導における指導形態を工夫して実施 ◆各小学校において、「家庭学習強化週間」等を設定し、家庭と連携して実施	◎基礎・基本の内容習得について、児童の実態調査から計画的かつ継続的な学力補充を行った。 ◎各小学校にて参加者選定や体制等工夫により、効果的な取組を実施した。 ◎きめ細かな指導体制を確立できた。 ⇒小学校6年生の30人以下学級編成の実施 ◎習熟度や個に応じた指導を実施した。 ◎目標を持たせ、計画的に進めたり自主的に取り組んだりする態度の育成につなげた。	◆通過テスト試行実施(小学校1年生から中学校3年生まで)[11月] ◆各学校における補充学習「まなびや春日」[各学校にて計画、実施] ◆小学校5・6年生、中学校1年生の35人以下学級編成の実施[通年] ◆各学校の児童生徒の実態に応じた学習形態の工夫[通年] ◆家庭学習促進のための家庭との連携[通年]

中項目(2) いじめの防止等の推進

小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
①いじめの早期発見、早期対応、早期解決	◎「いじめ防止基本方針」に基づく校内体制の強化、定期的なアンケート調査・活用 ◎ＳＣ(スクールカウンセラー)、ＳＳＷ(スクールソーシャルワーカー)による校内研修	◆校内いじめ問題対策委員会の開催の徹底 ・アンケート調査の実施(毎月) ◆ＳＣを活用した校内研修等の実施(小学校年1回・中学校年3回) ・ＳＳＷを活用した校内研修等の実施(適時)	◎校内いじめ問題対策委員会の開催により、学校におけるいじめ問題への組織的指導体制を図ることができた。 ◎アンケート調査を基に対象者へ聞き取りを行い、早期発見、早期対応へ結びついた。 ◎ＳＣ、ＳＳＷを活用した校内研修の実施により、教員の危機管理意識等を高めることができた。	◆校内いじめ問題対策委員会実施の徹底(月1回) ◆アンケート調査・活用(毎月) ◆スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーによる校内研修等の実施(小学校年1回・中学校年3回)
小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
②学校、家庭、地域、関係機関との協力体制の強化	◎いじめ防止等対策推進委員会 ◎いじめ問題連絡協議会	◆いじめ防止等対策推進委員会の開催(5回)(いじめ重大事態の調査) ◆いじめの認知件数 ・小学校　60件　中学校　18件 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆いじめ問題連絡協議会(中止)	◎いじめ防止基本方針に基づくいじめの防止等のための有効な対策を検討することができた。 ⇒学校にいじめの報告について、徹底させる。	◆学校、家庭、地域、関係機関との協力体制の強化 ・いじめ防止等対策推進委員会〔11月〕

中項目(3) 不登校児童生徒の支援

小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
①教育支援センターによる支援	◎不登校児童生徒の実態分析及び提言 ◎小中学校の赴任者研修及び不登校担当者会議 ◎活動プログラムによる自立・学校復帰支援 ◎在宅制による学習支援 △筑紫地区合同進路説明会	◆月例報告、実態調査等による分析及び報告(毎月) ◆赴任者研修(各学校で実施)、不登校対策推進会議(3回)、不登校担当者会議(3回)、専門スタッフ会議(7回)の実施 ◆調理実習、ピアサポート、世の中見学、職場体験等の実施 ◆在宅制児童生徒への学習支援 小学生3名、中学校6名 配信回数190回 ◆マイスクール保護者会の中で、「安心な進路選択について」の講話を実施 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆筑紫地区合同進路説明会が中止となったため、市独自で実施	◎調査・分析を活かし、今後の具体的支援対策につなげることができた。 ◎各種会議・研修会の実施により、学校組織としての支援方法等を情報共有することができた。 ◎体験活動をとおして、自ら自分の生活を見つめ直し、また自己肯定感を高めることにつながった。 ◎個に応じた指導をすることができ、学校も学習状況を把握することで、よりきめ細かな支援ができた。 ◎多種多様なコースを持つ学校や充実した生徒支援を行っている学校を知ってもらい、進路選択に有用な情報収集の場となった。	◆不登校児童生徒の実態分析及び提言[毎月] ◆赴任者研修、不登校対策推進会議、不登校担当者会議、専門スタッフ会議〔適時〕 ◆体験活動プログラム等による自立・学校復帰支援〔適時〕 ◆在宅制による学習支援〔随時〕 ◇春日市独自の進路説明会〔7月〕
小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
②教育支援センターとスマイルルーム(中学校校内教育支援室)の交流	◎にこにこキャンプ等体験事業 ◎合同スポーツ交流会 △赤ちゃん先生クラス	◆にこにこキャンプ等体験事業 ◆スポーツ交流会の実施(5回) 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆赤ちゃん先生クラス(中止) ◆にこにこキャンプ等体験事業(一部中止、再掲)	◎スポーツを通して、他校の生徒と交流できることが刺激となり、コミュニケーション能力の育成の機会となった。	◆スポーツ交流会〔7回〕 ◆赤ちゃん先生クラス〔9月、1月〕
小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
③専門職による積極的支援	◎不登校専任教員、ＳＳＷ、ＳＣ、教育相談員の積極的活用	◆教育相談員　小学校2校に1名配置 ◆不登校専任教員　各中学校に1名配置 ◆ＳＳＷ　2中学校ブロックに1名配置 ◆ＳＣ　教育支援センターに配置 (小学校・中学校は、県費配置) ◆不登校兆候への早期対応等	◎専門スタッフを配置することにより、個別対応を図ることができた。 ◎ＳＣ，ＳＳＷを活用し、専門的な見地から児童生徒への関わりをもつことができた。 ◎不登校者数が減少した。 (令和元年度312人、令和2年度266人)	◆教育相談員、不登校専任教員、ＳＳＷ、ＳＣの積極的活〔随時〕 ◆早期対応と効果ある取組の徹底

中項目(4) 特別支援教育の充実

小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
	◎特別支援教育士の配置による体制整備 ◎特別支援教育コーディネーターへの研修 ◎特別支援教育支援員の適正な配置 ◎通級指導教室の充実 ◎個別の教育支援計画・指導計画の充実	◆特別支援教育士を市教委に配置し、体系的に相談及び検査を実施した ・検査件数　246件 ◆要配慮の児童生徒の増加に伴い、特別支援教育支援員を派遣し、校内体制の維持及び学習面の定着を図った。 ・小学校 特別支援教育支援員40人 ・中学校 特別支援教育支援員11人 ◆個人の障がい特性及び課題に応じ、特別支援学級や通級指導教室等で、個に応じた指導を実施 ◆通常学級においても必要に応じ個別の教育支援計画及び指導計画を策定し、必要に応じ教育支援委員会への提出を求めた。	◎多くの児童生徒について、課題を共有し、専門的に対応することができた。 ⇒対象者の増加に伴う検査後の必要なフォロー体制の検討 ◎特別支援教育支援員を配置することにより、特別支援学級の児童生徒に加え、通常学級にも増加している要配慮児童生徒に対し、個別の対応を行った。 ⇒個に応じた指導に必要な支援員の配置検討 ◎特別支援学級在籍者及び通級指導教室利用者のほか、必要と認められる児童生徒について個別の支援計画及び指導計画を各学校で策定。 ⇒通級による指導に必要な教員の適正配置の要望	◇通級指導教室の自校指導・巡回指導を検討し、実施する。〔3月〕 ◆特別支援教育コーディネーターへの研修［年間3回］

中項目(5) 新学習指導要領への対応

小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
	◎プログラミング教育の実施に向けたＩＣＴ環境整備の継続、小中合同研修	◆プログラミング教育の実施に向けたＩＣＴ環境整備の継続、市主催研修会の実施［5月、11月、2月］	◎研修会等を通して、プログラミング教育の実施に向けたＩＣＴ環境整備を進めることができた。※一人一台端末の配備と運用	◆学習指導におけるＩＣＴの利活用の推進と市主催研修会の実施［通年］
	◎カリキュラム・マネジメントの推進(「地域連携カリキュラム」に基づいた地域に開かれた教育課程の充実)	◆カリキュラム・マネジメントの推進(「地域連携カリキュラム」に基づいた地域に開かれた教育課程の改善・充実)	◎小学校5・6年生の「外国語科」、小学校3・4年生の「外国語活動」の完全実施に伴い、各学校の実態に応じた指導を工夫して実施した。	◆カリキュラム・マネジメントの推進(「地域連携カリキュラム」に基づいた地域に開かれた教育課程の充実)［通年］ ◆新しい教育課題に対応した小中合同公開授業の実施と研修体系の整理［通年］
	◎小学校全学年での外国語科、外国語活動等	◆ＡＬＴ4名、ＪＴＥ6名を各小中学校に配置【新型コロナウイルス感染症対応】		◆ＡＬＴ4名、ＪＴＥ6名を各小中学校に配置［通年］
	△外国語活動における小中合同公開授業(小中各1校)	◆外国語活動における小中合同公開授業(小中各1校)(中止)	△外国語活動における小中合同公開授業は、目的を明確にし、全体的な研修体系を見直す必要がある。	◆外国語を含めた学校の創意工夫による内容の公開を検討・実施［通年］
	△小学校外国語オープンスクールへの中学校教員の参加	◆小学校外国語オープンスクールへの中学校教員の参加(中止)	△小学校外国語オープンスクールの実施について、外国語に限らず、学校の教育活動の特色に応じた内容の公開も検討する。	

中項目(6) 教職員の働き方改革の推進

小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
	《教務課》 ◎教職員働き方改革推進研究会 ◎教職員の長時間勤務の実態把握 ◎学校閉庁日の設定 ◎音声対応電話設置による学校閉庁時刻の徹底	◆教職員働き方改革推進研究会の開催（年1回）※新型コロナウイルスの影響で前半は活動できていない ◆令和2年4月に導入した勤怠管理システムによる、勤務状況と長時間勤務の実態把握 ◆夏季休業及び冬季休業期間に学校閉庁日を設定（8月11日～8月15日、12月28日及び1月4日） ◆勤務時間外の電話をメッセージによる対応とすることを徹底し、勤務時間管理の意識向上を図った。 ◆働き方改革推進のため、令和3年3月に「春日市教職員の働き方改革取組指針」を策定した。 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆県補助事業を活用し、学校における感染症対策業務を担うスクール･サポート･スタッフを全校に配置	△新型コロナウイルスの影響で、研究会が年1回しか開催できなかった。 ⇒オンライン開催とする等、今後は実施形態を見直し、定期的に開催できる体制を整える。 ◎新たに導入した勤怠管理システムにより、正確な勤務状況や長時間勤務の実態を把握することができ、超過勤務削減の取組につながった。 ◎令和2年度から冬季休業期間中にも学校閉庁日を追加したことで、教職員の休暇取得を促進することができた。 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◎スクール・サポート・スタッフを配置したことで、教職員は本来の業務やオンライン授業等の新型コロナウイルスの影響で増大した業務に専念することができた。	◆教職員働き方改革推進研究会［年3回］ ◆働き方改革取組指針に基づく施策の推進［通年］ ◇初任者指導方法等研究事業
	《学校教育課》 ◎共同学校事務室による学校経営支援 ◎部活動指導員配置	◆共同学校事務室連絡協議会の実施(4回) 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆共同学校事務室連絡協議会のオンライン開催 ◆部活動指導員の配置(5校、8部) 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆部活動指導員研修会の書面開催	◎春日市小中学校インターネットバンキング運用規約の策定、学校事務職員のあり方を考えるDVDの作成 ◎部活動指導員を配置し、部活動指導体制の充実及び顧問教員の部活動指導に係る負担軽減を図った。	◆共同学校事務室連絡協議会の開催［年6回］ ◆部活動指導員研修会の実施[8月]

【別表　学校教育課における人的資源】（9～14ページ関連）

区分	職名	業務内容	配置先	配置人員
特別支援教育	サポートティーチャー	発達障がい等配慮が必要な児童生徒が増加しており、学級担任だけの指導が困難にある学級又は学年、また個別の指導等が必要な児童生徒への対応を行う。	小中学校配置（要教員免許）	0人
	特別支援教育支援員		小中学校配置	49人
	特別支援相談員	就学前児童の保護者に対する、就学についての相談及び児童の発達検査を行う。臨床心理士という専門性を生かした支援を行い、適正な就学のアドバイスを行う。	随時	1人
	通級指導教室教職員	春日小学校分室及び春日中学校分室として、ことば、きこえの発達の遅れ、ＡＤＨＤ、ＬＤ等の課題を抱える児童生徒に対し、個別又はグループでの訓練を行っている。	通級指導教室（春日市いきいきプラザ内）	県費負担教職員であり、春日小学校所属が8人、春日中学校所属が2人。市費任用職員1人。（春日小配置）
特別支援教育／不登校対策	特別支援教育士	発達障がいに高い専門性を有する特別支援教育士として特別支援教育の充実に向けた指導及び相談等（児童生徒検査、保護者面談、授業参観、担任面談、研修会等講話及びケース会議等）を行うとともに、学校、保護者及び療育関係者等をコーディネートすることで、特別な配慮が必要となる児童について早期発見、早期対応を行う。	学校教育課配置（会計年度任用職員）	3人（週3～4日勤務）
	スクールカウンセラー（ＳＣ）	児童生徒のこころの問題等に対して、高度で専門的な知識及び経験を有している臨床心理士を配置して、学校内の教育相談機能を高め、児童生徒及び保護者への心理・医療的アプローチや支援を行う。	小中学校配置 中学校配置（ブロック対応）	5人 3人
	スクールソーシャルワーカー（ＳＳＷ）	経済的事情など様々な困り感を持つ児童生徒又は保護者に対して、福祉の専門家として悩み等の整理を行うとともに、福祉サービス等を紹介するなど、福祉的アプローチや支援を行い、学校と家庭、公的機関、医療機関等のつなぎの役目も担う。	中学校配置（ブロック対応）	3人
不登校対策	教育支援センター長兼指導主幹	教育支援センターにおいて、心理的又は情緒的理由等により登校できない状態にある児童生徒の学校復帰、進学等に向けた指導、相談等を行う。	教育支援センター配置	1人
	教育支援センター指導員			3人
	教育相談員	様々な理由から学校へ登校できない児童に対し、登校指導、学習面での支援、生活習慣の指導、教育相談等を行う。また保護者に対しても必要な相談相手として関わりを持ち、子どもへの登校刺激の必要性等を助言している。まなびや春日の実施。	小学校配置	6人（2校に1人）
	不登校専任教員	教育支援センターとの連携の下、家庭から校内教育支援室（スマイルルーム）、教室復帰へとつながる切れ目のない支援を行う。	中学校配置	6人（各学校に1人）

■大項目［2］心と体づくり

1　施策の達成度(自己評価)　【4：十分な成果が見られる。3：一定の成果が見られる。2：成果が不十分である。1：成果が見られない又は未実施。】

大項目	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	備考(評価の視点、評価指標等)	担当課
［2］心と体づくり	3.4	(1) 豊かな心の育成	3.3	①豊かな人間性・市民性の育成	4	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　4項目中[4]項目実施 ・オリンピック・パラリンピックに関する活動等を通して、スポーツを「する・見る・支える・知る」観点から捉え、スポーツに親しむ機運を高めることができた。 ・道徳科を要とした道徳教育について、全教育活動を通して推進することができた。 ・児童生徒が地域の行事・活動等に参加することができた。 ・児童生徒の市民性を育成する「地域連携カリキュラム」を実践することができた。	学校教育課
				②チャレンジ精神の育成	3	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　3項目中2項目実施 ・知のチャレンジでは、チャレンジ精神を養うことができた。 ・俳句大会では、伝統的な言語文化に親しむとともに、継承及び発展させる態度の育成ができた。	学校教育課
				③人権感覚と実践力の向上	3	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　2項目中[1]項目実施 ・体罰によらない人権尊重の視点に立った教育活動を推進し、人権が尊重される「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」に努めることができた。 ・同和教育副読本「かがやき」、人権教育学習教材集「あおぞら」「あおぞら2」を活用した授業公開を通して、自他の人権を尊重できる豊かな人権感覚を養うことができた。	学校教育課
		(2) 体力の向上と食育の推進	3.5	①体育・運動を通じた心と体づくり	3	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　3項目中[2]項目実施 ・各学校において、体力調査の結果分析を基に体力向上プランを作成し、重点的な取組の充実を図った。 ・事業の実施により、体力向上のきっかけづくり及び運動習慣形成につながった。	学校教育課
				②食育を通じた心と体づくり	4	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　4項目中[2]項目実施 ・各学校において、弁当の日の実施及び給食を活用した食育に取り組むことによって、児童生徒の自立心及び健康管理力を育むことができた。	教務課

2　施策の実施状況

中項目(1) 豊かな心の育成

小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
①豊かな人間性・市民性の育成	◎オリンピック・パラリンピックに関する指導を通したスポーツの意義や価値等の高揚 ◎全教育活動を通した道徳教育の充実	◆オリンピック・パラリンピックに関する資料等や報道等に触れる活動 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆オリンピック・パラリンピックに関する資料等や報道等に触れる活動の聖火行事等(中止)	◎スポーツを「する・見る・支える・知る」観点から捉え、スポーツに主体的に親しむ態度を育成することができた。 ◎道徳科と要とした道徳教育を全教育活動において実践し、道徳性を育むことができた。	◆オリンピック・パラリンピックに関する資料・報道等に触れる活動を通したスポーツの意義や価値等の高揚［通年］ ◆全教育活動を通した道徳教育の推進[通年]

	◎児童生徒の地域活動の推進 ◎児童生徒の市民性自己評価（小中通知表添付）	◆地域連携カリキュラムに基づいた授業実践 ◆地域行事・活動等への参加 ◆児童生徒の市民性自己評価	◎地域連携カリキュラムの実践により、児童生徒が主体的に地域に関わりながら地域で学び、地域に貢献することができた。	◆児童生徒の地域行事・活動等の推進［通年］ ◆児童生徒の市民性自己内評価［未定］
小項目	令和2年度の当初計画（ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが） （◎：実施　△：未実施）	令和2年度の具体的な取組状況 （実施結果、実績値）	令和2年度の成果と課題（方向） （◎：成果　△：課題　⇒：方向）	令和3年度の取組状況 （◇：新規　◆：継続）
②チャレンジ精神の育成	◎俳句大会 ◎知のチャレンジＫＡＳＵＧＡ △英語暗唱・スピーチ大会	◆俳句大会 ・小学校5･6年生及び中学校3年生を対象に、俳句の創作を通して伝統的な言語文化に親しみを持たせた。 ・受賞者　24人（エントリー数　3,561句） ◆知のチャレンジ「小学生国語・算数テスト」 ・小学校5・6年生を対象とする国語及び算数テストの過去問を春日市ウェブサイト上に掲載 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆英語暗唱・スピーチ大会（中止）	《俳句大会》 ◎伝統的な言語文化を継承及び発展させることができる児童生徒を育成することができた 《知のチャレンジ》 ◎自分の意思で課題に取り組む児童が多く、チャレンジ精神を育成することができた	◆俳句大会［9月］ ◆英語暗唱・スピーチ大会［新型コロナウイルスの影響により中止］
小項目	令和2年度の当初計画（ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが） （◎：実施　△：未実施）	令和2年度の具体的な取組状況 （実施結果、実績値）	令和2年度の成果と課題（方向） （◎：成果　△：課題　⇒：方向）	令和3年度の取組状況 （◇：新規　◆：継続）
③人権感覚と実践力の向上	◎体罰のない学校づくり △春日市小中学校の「社会科基底カリキュラム」、県副読本等「かがやき」「あおぞら」「あおぞら2」を活用した「中学校ブロック授業交流会」	◆県同和教育副読本「かがやき」、人権教育学習教材集「あおぞら」「あおぞら2」、「春日市社会科基底カリキュラム」を活用した授業を実施 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆「中学校ブロック授業交流会」（中止）	◎体罰のない学校づくりを推進することができた。 ◎県同和教育副読本や人権教育学習教材集、春日市社会科基底カリキュラムを活用し、日常的な授業実践を行うことにより、道徳教育と関連付け、自他の人権を尊重する豊かな人権感覚を養うことができた。	◆定期的な体罰実態調査の実施・分析［通年］ ◆県同和教育副読本「かがやき」、人権教育学習教材集「あおぞら」「あおぞら2」、「社会科基底カリキュラム」を活用した「中学校ブロック授業交流会」［通年］

中項目(2)　体力の向上と食育の推進

小項目	令和2年度の当初計画（ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが） （◎：実施　△：未実施）	令和2年度の具体的な取組状況 （実施結果、実績値）	令和2年度の成果と課題（方向） （◎：成果　△：課題　⇒：方向）	令和3年度の取組状況 （◇：新規　◆：継続）
①体育・運動を通じた心と体づくり	◎体力・運動能力調査結果を踏まえた取組の工夫 ◎体力向上プラン（一校一取組） △体力アップチャレンジＫＡＳＵＧＡ	◆福岡県児童生徒体力・運動能力調査結果 ・県平均を上回る種目・学年・男女 小学校50/96項目、中学校41/48項目 ◆体力向上プランの策定及び実施 ・小学校　12校、中学校　6校 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆全国体力･運動能力、運動習慣等調査（中止） ◆体力アップチャレンジ（長縄跳び大会）（中止）	◎体力向上プランに示した一校一取組を中心に、各学校で重点的な取組の充実を図った。	◆体力・運動能力調査結果を踏まえた取組の工夫［通年］ ◆体力向上プラン（一校一取組）［通年］ ◆体力アップチャレンジＫＡＳＵＧＡ［新型コロナウイルスの影響により中止］

小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
②食育を通じた心と体づくり	◎感謝の心を育てる弁当の日 ◎給食(食文化・産地・献立等)を活用した食育 △食に関する指導研修会の充実 △食育推進のための試食会	◆感謝の心を育てる弁当の日 各学校で年1回～4回 ◆給食（食文化・産地・献立等）を活用した食育推進 《小学校》 ・とれたてうまかばい給食の実施[年8回] ・地産地消推進会議[年1回] 《中学校》 ・給食アンケートを生徒対象に実施。 《共通》 ・かすが「食育だより」の発行[年2回] ・給食を活用した食育の充実[通年] ・小中学校食物アレルギー対応検討会の開催[年1回] 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆食に関する指導研修会[中止] ◆中学校給食保護者試食会[中止] ・給食保護者試食会の代替として、中学校給食紹介動画を作成 ◆学校給食料理コンクール[中止] ◆県補助事業を活用した、県産畜水産物を使用した給食の実施	《小学校》 ◎児童が生産者を知り、その生産者の思い及び近隣で生産されている生産物が給食の食材となっていることを知ることで、食に対する関心及び感謝の心を育むことができた。 ◎学校給食の献立の充実及び多様化を図るとともに食育の推進に役立てることができた。 《中学校》 ◎給食保護者試食会が開催できない中でも、動画を用いて中学校給食への保護者の理解を深めることができた。 ◎生徒の声を参考に新メニューの開発等、中学校給食の充実につながった。 《共通》 ◎児童生徒の自立心及び健康管理能力を育むことができた。 ◎市ウェブサイト等を活用し、家庭及び地域に対して、食育推進の情報発信を行うことができた。 ◎食物アレルギー対応検討会を実施し、アレルギーマニュアルを運用する中での改善点を共有し、マニュアルの見直しを行った。 △新型コロナウイルスの影響で、食に関する指導研修会が実施できなかった。 ⇒オンライン開催とする等、今後は実施形態や時期を見直し、開催できる体制を整える。	◆感謝の心を育てる弁当の日 各学校で年1回～4回 ◆給食（食文化・産地・献立等）を活用した食育推進 《小学校》 ・とれたてうまかばい給食の実施[年数回] ・市学校給食料理コンクール[中止] ・地産地消推進会議[年1～2回] 《中学校》 ・中学校給食保護者試食会[年2回] 《共通》 ・かすが「食育だより」の発行[年2回] ・給食を活用した食育の充実[通年] ・小中学校食物アレルギー対応検討会[年1回以上] ◆食に関する指導研修会の充実

■大項目［3］安全・安心の環境づくり

1　施策の達成度(自己評価)　【4：十分な成果が見られる。3：一定の成果が見られる。2：成果が不十分である。1：成果が見られない又は未実施。】

大項目	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	備考(評価の視点、評価指標等)	担当課
［3］安全・安心の環境づくり	3.5	(1) 安心して学び、暮らせる環境の整備	4			●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　2項目中[2]項目実施 ・校区の在り方の検討 ・関係機関との連携による通学路安全点検	学校教育課
		(2) 自助意識、安全対応能力の向上	3			●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　3項目中[2]項目実施 ・安全安心課と警察の協力の下、各小中学校において自転車安全教室(防犯指導含む)を実施し、児童生徒の安全対応能力の向上を図った。 ・各校において、防災訓練等を随時実施した。	学校教育課

2　施策の実施状況

中項目(1) 安心して学び、暮らせる環境の整備

小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
	◎校区の在り方の検討	◆令和元年度に通学区域審議会を立ち上げ、平成17年度に実施した校区再編の検証を行い、現在の状況を踏まえ、再度校区再編について協議を行っている。	◎校区再編事業について、令和元年度から開始し、平成17年度に実施した校区再編の効果や、現在生じている課題を基に再度校区の在り方を審議会を立ち上げ検証を行っている。 ⇒新型コロナウイルス感染症の影響により関係者を含めた審議会が開催できていないため、必要に応じて適宜審議会を開催する。	◆校区の在り方の検討[通年]
	◎関係機関との連携による通学路安全点検	◆各小中学校長からの報告を基にした警察及び道路管理課と合同の通学路安全点検を行い、現地確認及び道路の整備等による通学路の安全確保を行った。	◎「春日市通学路安全プログラム」に基づき、学校からの危険箇所を抽出し、警察及び道路関係者を含めた協力体制の下、必要な改善措置を講じることができた。 ⇒安全確保のための道路等のハード整備が困難な箇所については、現場の状況に応じた通行方法を個別に検討し、指導する必要がある。	◆関係機関との連携による通学路安全点検[9月]

中項目(2) 自助意識、安全対応能力の向上

小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
	◎避難訓練(防災・不審者対応)	◆各学校における防犯教室、防災訓練及び交通安全教室等の取組の継続	◎各学校における防犯教室、防災訓練及び交通安全教室を継続的に実施することによって、児童生徒の安全対応能力の向上が図られている。	◆避難訓練、防災訓練 ・各小中学校において随時実施予定
	◎交通安全教室	【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆交通安全教室は、感染対策を行った上で実施した。		◆交通安全教室 ・小学校[6月]、中学校[9月]
	△熱中症予防講習、救命講習	◆熱中症予防講習(中1)、救命講習(中2)(中止)	◎養護教諭等が研修の一環として、環境省後援の熱中症対策アドバイザー養成講座を受講した。	◆熱中症予防講習[新型コロナウイルスの影響で中止] ◆救命講習[10～11月]

2 社会教育・学びの推進・充実

■大項目［1］学校・家庭・地域の「共育」基盤づくり

1　施策の達成度(自己評価)　【4：十分な成果が見られる。3：一定の成果が見られる。2：成果が不十分である。1：成果が見られない又は未実施。】

大項目	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	備考(評価の視点、評価指標等)	担当課
［1］学校・家庭・地域の「共育」基盤づくり	3.0	(1) コミュニティ・スクールの推進	4			●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　4項目中[4]項目実施 ・熟議については、新型コロナウイルス感染症の影響により全校では実施できなかったものの、各校の教育課題等に応じて実施され、学校運営協議会の充実を図ることができた。 ・学校運営協議会や実働推進組織、部伍会等において、事業目標を共有するとともに、ＰＤＣＡサイクルを重視するよう推奨できた。また、コミュニティ・スクール進捗状況評価の見直しによりＰＤＣＡサイクルの強化を図った。 ・地域連携カリキュラム(教育課程内外の教育活動)の整備及び取組の充実を図ることができた。また、地域コーディネーター配置校の拡大(6校から17校へ)を円滑に実施できた。 ・地域コーディネーターの活用等により、学校、家庭、地域、児童生徒の四者によるコミュニティ・スクールの目的、仕組み、活動等の共有化を図ることができた。	地域教育課
		(2) 家庭教育力の向上	3.0	①家庭教育に関する学習機会の提供と参加促進	3	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　2項目中2項目実施 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、4ヵ月開講を延期し9月から2月の期間で学級を実施(受講者58名)。 ・講座を通して、9割の学級生が学びを家庭で生かしている。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、入学説明会の縮小となり、子育て講演会を中止とした。代替として、小中学生の保護者に向けて家庭教育に関する資料を配付した。	地域教育課
				②学校や地域に貢献できる人材の育成	3	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　2項目中2項目実施 ・家庭教育学級の受講生が、家庭だけではなく、学校や地域活動への参画につながる講座を提供した。	地域教育課
				③睡眠教育(眠育)の推進	3	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　2項目中[2]項目実施 ・睡眠日誌をつけることにより、児童生徒は、睡眠を意識した生活をすることができた。 ・授業実践については、専門家の活用のほか、小学校を中心に担任による授業が進められるなど、各校における取組が充実してきた。 ・児童生徒の睡眠のデータやアンケートの集計結果を学級単位にまとめ、担任に提供することで、担任の児童生徒の状況把握や教育相談への活用に資することができた。 ・眠育公開講座を通して、子どもの睡眠について保護者の意識の向上が図られた。	地域教育課

		(3) 地域教育力の活性化	3.5	①子どもの体験活動の場、居場所づくりの支援	4	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　2項目中2項目実施 ・放課後子供教室事業の実施により、子どもたちが放課後等に安全・安心に過ごすことができる居場所や様々な体験活動の場を市、地域及び学校が協働して提供した。 ・地域で子どもを育てる交流会を通して、学校、家庭、地域で子どもを育てる意識の向上が図られた。	地域教育課
				②地域の青少年育成活動の支援	3	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　3項目中3項目実施 ・子ども会育成会連絡協議会及び青少年育成市民会議への支援を通して、次代を担う青少年の育成に寄与した。 ・自治会等が行う青少年育成活動の情報を収集し発信することで、地域教育力の活性化を支援した。	地域教育課
		(4) 学びの場づくりの推進	2.3	①青少年の感性を磨く機会の提供	3	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　3項目中3項目実施 ・弥生の里児童画大賞展では、子どもの自己表現力、想像力を高め、芸術家に自分の作品が認められる喜びを感じる場を提供した。(応募総数 4,284点) ・実行委員会形式での成人式を開催し、成人の社会に参画する意識を高めることができた。 ・天体観測施設を活用した事業の実施により、青少年の健全育成及び市民の生涯学習の推進に寄与した。	地域教育課
				②学びの循環による地域人材の育成	1	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　1項目中0項目実施 ・実践につなぐ地域活動学習講座は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	地域教育課
				③学びの循環による市民活動の機会の拡充	3	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　1項目中1項目実施 ・新型コロナウイルス感染症の影響により多くの団体が活動を中止したが、感染防止対策の情報提供などにより、一部ではあるが団体活動の継続を支援することができた。	地域教育課

2　施策の実施状況

中項目(1)　コミュニティ・スクールの推進

小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
	◎熟議を通した学校運営協議会の充実	《熟議を通した学校運営協議会の充実》 ◆熟議の各校1回以上実施の推奨 ◆コミュニティ・スクール進捗状況評価による現状把握及び検証(年1回) ◆関係課職員の学校運営協議会委員又はオブザーバーとしての全校配置 ◆コミュニティ・スクール研修の体系的かつ計画的な実施(参加人数計415人) ・教職員赴任者研修会 実施日　随時(動画視聴による) 参加人数　54人 ・学校運営協議会委員等研修会(全委員対象) 実施日　第1回会議開催日(6月～9月) 参加人数　288人 ・学校運営協議会委員等研修会(通算任期2年以下委員等対象) 実施日　令和2年10月6日(火) 参加人数　8人 ・コミュニティ・スクール・トップセミナー 実施日　令和2年8月31日(月)、9月18日(金)、9月30日(水)、10月14日(水)、10月19日(月)、10月23日(金) 参加人数　65人 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆学校運営協議会　ウェブ会議システム有償アカウントの学校への貸出及び操作支援 ◆熟議　実施の義務付けを推奨に緩和し、学校長の判断を尊重 ◆教職員赴任者研修会　実施方法を動画視聴に変更 ◆コミュニティ・スクール・トップセミナー実施回数を6回に変更して分散開催 ◆市内他校視察研修(中止) ◆県外視察等研修(中止)	《熟議を通した学校運営協議会の充実》 ◎熟議が実施できた学校では特に、各校の教育課題等に応じた協議がなされ、学校運営協議会の充実を図ることができた。 ⇒新型コロナウイルス感染症の影響により熟議が全校では実施できなかったため、ウェブ会議システムの活用等を推奨し、実施校数の増を図る。 ◎コミュニティ・スクール進捗状況評価により的確に現状把握及び検証を実施できた。 ◎教育委員会事務局等の関係課職員がきめ細かに意見、提案等を行い、学校運営協議会の充実に資することができた。 ◎実施方針に基づく計画的かつ体系的なＣＳ研修を実施し、多くの関係者へ的確な情報提供を行うことができた。 ⇒教職員赴任者研修の対象者を更に明確に示すとともに、アニメーションの追加等により動画の見やすさを向上する。	小項目(1)コミュニティ・スクールの理解促進 ①小学校区や中学校区におけるコミュニティ・スクールの趣旨や取組への理解・共有の促進 ◆各校での児童生徒、保護者への説明機会の充実[通年] ◆ウェブ、学校だより等による継続的な情報発信[通年] ◆自治会と連携した取組状況の発信[通年] ②コミュニティ・スクールに係る市民の認知度の向上 ◆市ウェブ、市報等を活用した市民への継続的な情報発信及び効果的なＰＲ方法の研究[通年] 小項目(2)コミュニティ・スクールの取組の充実 ①学校運営協議会の更なる充実 ◆学校運営協議会における熟議による目的・目標・課題の共有化[通年] ◆児童生徒の学校運営協議会への参画促進[通年] ◆実施方針に基づく体系的なコミュニティ・スクール研修の実施[通年] ②コミュニティ・スクールの取組状況の定期的な評価・検証 ◆学校関係者評価による教育活動の成果の検証[年2回] ◆継続的な進捗状況評価の実施[年2回] ③地域連携カリキュラムをはじめとする連携・協働活動の充実 ◇中学校区別教育活動一覧パンフレットの作成及び活用[～3月] ◆全校の地域連携カリキュラムに関する情報の集約及び共有化[～7月]

	◎事業目標を共有し、ＰＤＣＡサイクルを重視した学校運営協議会や実働推進組織、部伍会等の実施	《事業目標を共有し、ＰＤＣＡサイクルを重視した学校運営協議会や実働推進組織、部伍会等の実施》 ◆ＰＤＣＡサイクルによる連携活動の評価、見直し状況の把握と研修による推奨 ◆コミュニティ・スクール進捗状況評価の簡素化(評価項目改訂及びオンライン化)	《事業目標を共有し、ＰＤＣＡサイクルを重視した学校運営協議会や実働推進組織、部伍会等の実施》 ◎各学校運営協議会への参加による評価、見直し状況の把握を行うとともに、コミュニティ・スクール・トップセミナーで事業目標の共有及びＰＤＣＡサイクルの重視を推奨した。 ◎ＰＤＣＡサイクルの強化のため、コミュニティ・スクール進捗状況評価の簡素化を実施した(①評価項目の全面改訂、②オンライン化、③評価・分析結果作成の自動化)。同時に、「評価の視点例」を評価者へ新たに示し、評価精度の向上を図った。	小項目(3)学校・家庭・地域の連携協働体制づくり ①地域コーディネーターによる連携支援の定着・充実 ◆地域コーディネーターの役割の周知徹底、活用促進[通年] ◆地域コーディネーターの活動状況の共有化[通年] ②地域コーディネーターの効果の検証と連携協働体制の充実 ◇各校での連携協働体制の充実に向けた熟議の推進[通年] ◆地域コーディネーターの配置による効果の継続的検証[通年] ③連携・協働活動の中心的な担い手の確保と幅広い住民の参画の促進 ◆学校、自治会、ＰＴＡ等と連携した活動の中心的な担い手の確保[通年] ◆誰もが参加しやすい学校支援ボランティア等の募集方法の工夫[通年] ※　新たに小項目を設定して取り組む。
	◎地域連携カリキュラム(教育課程内外の教育活動)の整備・取組の充実、地域コーディネーター活用 地域コーディネーター配置校の拡大	《地域連携カリキュラム(教育課程内外の教育活動)の整備・取組の充実、地域コーディネーター活用》 ◆地域コーディネーター配置校の拡大(6校から17校へ) ◆(再掲)コミュニティ・スクール進捗状況評価による現状把握及び検証(年2回) ◆全校の地域連携カリキュラムに関する情報の集約及び一覧表のフィードバック ◆地域コーディネーター連絡会議の効果的活用(年4回の開催。状況及び課題の把握。活動に資する情報提供) ◆既設置校における地域コーディネーターの支援 ◆次年度の地域コーディネーター配置校拡大準備(市報への記事掲載、既設置校のノウハウ提供等) ◆地域コーディネーター配置校の拡大に伴う評価(関係者からの聴き取り) 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆感染リスク軽減のための地域連携カリキュラム実施上の工夫について学校長に通知	《地域連携カリキュラム(教育課程内外の教育活動)の整備・取組の充実、地域コーディネーター活用》 ◎地域コーディネーター配置校の拡大を円滑に実施した。 ◎(再掲)コミュニティ・スクール進捗状況評価により的確に現状把握及び検証を実施できた。 ◎地域連携カリキュラムに関する情報を全校で共有し、自校での活用を可能とすることができた。 ◎連絡会議及び研修により、地域コーディネーターへの的確な情報提供及び情報交換を実施できた。 ◎既設置校の地域コーディネーターと連絡を密に取り、通年的確に支援した。また、要望に応じ、後任の人材確保を実施できた。 ◎地域コーディネーターに関する見開き2頁の記事を市報に掲載した。次年度に地域コーディネーターを新規設置する学校に対して、ノウハウの提供等の支援を的確に実施できた。 ◎地域コーディネーター配置校の拡大について、関係者からの継続的な聴き取りを実施したところ、新規配置には好意的な意見が多かった。	

	◎四者(学校、家庭、地域、児童生徒)によるコミュニティ・スクールの目的、仕組み、活動等の共有化	《四者(学校、家庭、地域、児童生徒)によるコミュニティ・スクールの目的、仕組み、活動等の共有化》 ◆学校運営協議会の協議結果の四者による共有化(コミュニティ・スクール通信、学校だより、学校ウェブサイト等を通じた情報発信) ◆児童生徒の学校運営協議会への参加 ◆主任児童委員の学校運営協議会委員への任命 ◆コミュニティ・スクール進捗状況評価結果の市ウェブサイトへの掲載(年1回) ◆市ウェブサイトの充実化(随時) ◆市報大記事の活用(令和3年4月15日号)に向けた準備 ◆須玖小学校 地域学校協働本部への令和2年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆児童生徒の学校運営協議会への参加　実施の推奨は見送り、学校長の判断を尊重	⇒学校によって地域コーディネーターの活動状況に濃淡があるため、更なる充実を図る。 《四者(学校、家庭、地域、児童生徒)によるコミュニティ・スクールの目的、仕組み、活動等の共有化》 ◎各種たより、学校ウェブサイト等により学校運営協議会の協議結果に関する情報発信を実施する学校数が増加し、内容も充実した。特に、地域コーディネーターの活用による部分が大きかった。 ◎7校で児童生徒の学校運営協議会への参加が実施された。 ⇒新型コロナウイルス感染症の影響により児童生徒の学校運営協議会への参加を推奨できなかったため、ウェブ会議システムの活用等を推奨し、実施校数の増を図る。 ◎主任児童委員との児童生徒に関する情報共有及び福祉部局との連携を図ることができた。 ◎コミュニティ・スクール進捗状況評価の結果を周知することができた。 ◎市ウェブサイトの掲載内容を随時充実化した。 ⇒四者による共有化のため、継続して市ウェブサイトの掲載内容を充実化させる。 ◎市報大記事の活用(令和3年4月15日号)に向けた準備を実施できた。 ◎文部科学大臣表彰により、被表彰者の功績を称えることができた。	

中項目(2) 家庭教育力の向上

小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
①家庭教育に関する学習機会の提供と参加促進	◎家庭教育学級(通常講座、公開講座)	◆家庭教育学級の実施 ・幼稚園・保育園(所)児及び小中学生の保護者を中心に講座を実施 ・学級生　58人(前年度77人) ・学習会　8回 (学級生企画(ママカフェ等)3回)	≪家庭教育学級≫ ◎学校・地域でも役立つような様々な視点から家庭教育について学ぶ講座を企画し実施した。 ◎講師と連携し家庭教育力の向上につながる講座を企画し学びを還元した。 ◎学級生自らが実施する「ママカフェ」では、	◆家庭教育学級通常講座[5～2月]

	◎入学説明会での子育て講演会	◆公開講座の実施 ・3回(延べ147人) ・アンケートによる受講生の満足度94% 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆各講座で事前申込制の導入による受講者の管理。 ◆消毒・換気の徹底、利用時間の制限等による感染拡大防止対策。 ◆入学説明会での子育て講演会 ・新型コロナウイルス感染症により、子育て講演会は中止した。代替として、子育てや家庭教育に関する資料を全小中学校の入学予定者に配付した。 ・市内全小中学校の入学説明会時に実施 ・参加校数 ・小学校(12校) ・中学校(6校)	学級生同士の交流が深まり、仲間づくりにつなげた。 ≪公開講座≫ ◎市民が基本的生活習慣を見直し、睡眠教育についての周知と理解を図った。 ◎講師自身の体験談から、命の大切さを知り人権教育につながる講座を行った。 ◎市民に対し子育てや家庭生活に生かせる学びの提供を行った。 ≪入学説明会での子育て講演会≫ ◎子育てや家庭教育に関する資料を配付することで、子育て講演会を受講できなかった人へも啓発することができた。 ⇒就労している人でも幅広く受講出来るよう、開催時期や内容の見直しを図る。 ⇒情報提供等の多様な手法を調査研究する。	◆公開講座[7、9、11月] ※うち1回は土曜日での開催 ◆入学説明会での子育て講演会の中止に伴い家庭教育に関する情報の提供[1月～2月]
小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
②学校や地域に貢献できる人材の育成	◎ＰＴＡの学びのための支援と連携 ◎家庭教育学級の充実	◆学校や地域に貢献できる人材の育成 ・学級生対象のＰＴＡ・地域活動促進講座の実施 ◆家庭教育学級の充実 ・学級生対象の意識調査実施 ・アンケートによる家庭で学びを生かしている受講者の割合　91%	◎ＰＴＡ・地域活動促進講座を実施することで、地域活動などの興味関心を高めるだけでなく、活動のきっかけづくりとなった。 ◎11名の受講者が家庭だけではなく地域又は学校(ＰＴＡ役員)で活躍し、学びを還元した。 ⇒講座内容、情報提供等の多様な手法を調査研究する。	◆家庭教育学級の充実[5～2月] ◇家庭教育に関する情報提供(市報、ＳＮＳ)[5～2月]
小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
③睡眠教育(眠育)の推進	◎モデル校による試行実施	◆モデル校による試行実施 ・事務の一部を委託し、専門家から助言、指導を受ける。 ・委託先：筑紫女学園大学 ・助言、指導：大西　良准教授 ・モデル校6校(春日中、春日北中ブロック) ・児童生徒による睡眠日誌の作成	◎睡眠日誌をつけることにより、児童生徒は、睡眠を意識した生活をすることができ、小学生では、22時より前に就寝する割合が、令和元年度64.4%に対し令和2年度71.3%、対前年比6.9%増となった。 ◎児童生徒の睡眠のデータやアンケートの集計結果を学級単位にまとめ、担任に提供す	◆モデル校による試行実施［通年］ ・モデル校6校(春日中、春日北中ブロック) ・睡眠日誌の作成[年2回：小学校5月・10月、中学校6月･10月] ・睡眠と健康に関するアンケート調査[小学校5月、中学校6月] ・単純集計調査データの学校への提供[7月]

		（対象者3,005人、実施率 92.11%） ・睡眠と健康に関するアンケート調査 （対象者2,333人、回収率 94.68%） ・専門家による授業、研修支援 ・小学校授業2校（春日小、日の出小） ・中学校用授業動画作成、3校で視聴 （春日中、春日北中、春日東中） ・春日市学校教育研究合同研修会 （チャレンジ21）に眠育研修動画を提供 ・眠育授業視察（担任による授業） ・日の出小学校（令和2年7月10日） ・春日小学校（令和2年9月15日） ・アンケート調査等の集計、解析及び報告書作成、学校へのデータ提供 ・調査報告書（全体、学校別） ・クラス別集計一覧（担任用） 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆モデル校での試行実施 ・専門家による授業、研修支援 ・中学校の授業について、感染拡大の影響により、授業動画の作成、校内放送による教室での一斉視聴等に切り替え実施した。 ・春日市学校教育研究合同研修会（チャレンジ21）の講演に替えて、研修動画を作成し、提供した。	ることで、担任の児童生徒の状況把握や教育相談への活用に資することができた。 △アンケートの実施時期が10月のため、集計結果を担任に提供する時期が後期となっている。学校からは、児童生徒のフォローに生かすには、前期のうちにデータが必要との意見あり。 ⇒令和3年度は、アンケート等の実施時期を5・6月とし、学校へのデータ提供を7月中旬とする。 ◎専門家による情報提供により、小学校2校で担任による眠育授業が実施されるなど、学校での実践が充実した。	・個人懇談用みんいく個人シート ・クラス別集計一覧（担任用） ・専門家による授業［日の出小7月8日、その他未定］ ・教員による授業実践［各校の計画による］ ・アンケート調査等の集計、解析及び報告書作成、3年間の試行総括［3月］
	◎眠育公開講座	◆眠育公開講座 ・講話 「よく寝て　よく学ぶ　眠育の大切さ」 ・講師：筑紫女学園大学　大西　良准教授 ・実施日：令和2年8月27日 ・参加者：37名 ・アンケート 満足度99.6%	◎眠育公開講座により、家庭向けの啓発が進んだ。 ⇒家庭向けの啓発にさらに力を入れる必要がある。チラシの作成配付、個人懇談にて活用する個人シートを導入する。	◇眠育リーフレット作成［5～12月］ ・小学生用、中学生用の2種類 ・市内小中学校在校生及び令和4年度入学予定者に配布予定

中項目(3) 地域教育力の活性化

小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
①子どもの体験活動の場、居場所づくりの支援	◎放課後子供教室(アンビシャス広場)	◆放課後子供教室(アンビシャス広場)を実施 ・開設小学校区数 12小学校区 ・活動会場(場所)小学校、地区公民館等 ・開設延べ日数　495日 ・参加延べ人数　子ども 8,720人 大人　2,527人 ◆放課後子供教室(アンビシャス広場)関係者同士のネットワークづくりを目的とした「かすがアンビネット」事業を実施 ・実施回数 1回、参加人数　30人 ・満足度 100%(アンケート結果) 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆放課後子供教室(アンビシャス広場) ・緊急事態宣言措置が実施されたことに伴い、次の期間、事業を中止(中止期間：令和2年2月28日～令和2年5月31日、令和3年1月15日～令和3年3月7日)。事業の再開に当たり、全ての教室を市職員が巡回訪問し、必要な感染対策を適切に講じていることを実地にて確認した。 ◆かすがアンビネット ・緊急事態宣言措置の影響により上半期は実施できず、下半期に1回開催。	《放課後子供教室(アンビシャス広場)》 ◎子どもたちの身近な場所で体験活動の機会を提供し、児童の健全な育成、地域の教育力の向上及び生涯学習の振興を推進した。 ◎「かすがアンビネット」は、フィジカルディスタンスを保って楽しめるレクリエーションの実践方法を学び、新しい生活様式においても歩みを止めず、「地域の子どもは地域で育てる」という意識の向上を図ることができた。 ◎「かすがアンビネット」での学習を実際の広場活動で行うことによって、子どもの体験学習につなげることができた。 ◎放課後子供教室の事務を一部見直し、活動者の事務処理の負担軽減を図ることができた。 ⇒人材発掘等、持続可能な活動に向けた取組を継続して行う必要がある。	◆放課後子供教室(アンビシャス広場)[通年] ・17広場(12小学校区)で実施 ・放課後子供教室(アンビシャス広場)ネットワークづくり事業かすがアンビネット 第1回　令和3年7月12日(月)開催 第2回　令和3年12月頃開催予定 ◆放課後子供教室のＰＲ動画作成 ・対象：天神山小学校区
	◎地域で子どもを育てる交流会	◆地域で子どもを育てる交流会 ・実施日 令和3年1月27日(水) ・参加人数 43人 ・満足度 90.4%(講話)、90.5%(トークセッション)(ともにアンケート結果) 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆地域で子どもを育てる交流会 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、講話及びトークセッション形式で実施。	《地域で子どもを育てる交流会》 ◎コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の連携した取組に関する事例発表や、共育活動について考えるトークセッションの実施により、課題や情報を共有し、活動充実に向けた気運の醸成と地域教育力の活性化に資することができた。	◆地域で子どもを育てる交流会 ・令和4年1月頃開催予定

小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
②地域の青少年育成活動の支援	◎子ども会活動のリーダー育成	◆子ども会活動のリーダー育成 ・活動支援のため補助金を交付 ・共催事業として事業実施を支援 「インリーダー研修」 実施回数 7回 参加者 37人(小学5年生)(15子ども会/38子ども会)(8小学校区/12小学校区) 「ジュニアリーダー研修」 実施回数　5回 参加者　44人(小学6年生　15人、中学1年生　11人、中学2年生　5人、中学3年生　7人、高校1年生　1人、高校2年生3人、高校3年生　2人)	《子ども会活動のリーダー育成》 【インリーダー研修・ジュニアリーダー研修】 ◎インリーダー研修参加者37人のうち、6人が令和3年度のジュニアリーダー研修に参加しており、参加者の更なる成長と次代を担うリーダー養成の気運醸成に資することができた。 【子ども会】 ◎子どもによる主体的な子ども会活動が促進された。 ◎市ホームページに単位子ども会の年間活動予定を掲載することにより、単位子ども会育成団体や子ども会育成会連絡協議会の関係者が市内の単位子ども会の活動状況を把握できるようにし、コロナ禍における子ども会活動の再開を支援した。	◆子ども会活動のリーダー育成 ・活動支援のため補助金を交付 ・共催事業として事業実施を支援 「インリーダー研修」 実施予定回数　8回 参加者 39人(小学5年生)(16子ども会/38子ども会)(9小学校区/12小学校区) 「ジュニアリーダー研修」 実施回数　5回 参加者　24人(小学6年生　6人、中学1年生　5人、中学2年生　3人、中学3年生　3人、高校1年生　3人、高校2年生1人、高校3年生　3人) ・子ども会活動[通年]
	◎六中サミット研修会、発表会	◆六中サミット研修会、発表会 ・活動支援のため補助金を交付 ・共催事業として事業の実施を支援 「六中・生徒会サミット実践発表会」 実施日　令和2年8月9日(水) 参加者　中学校生徒会役員　22人、教員　8人、参観その他　35人 「六中・生徒会サミット研修会」 実施日　令和2年12月5日(土) 参加者　中学校生徒会役員 73人、教員6人、参観その他 37人 「青少年健全育成講演会」 実施日　令和3年3月27日(土) 参加者　90人 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆六中サミット研修会、発表会 ・感染拡大防止のため規模を縮小し開催	《六中サミット研修会、発表会》 【六中生徒会サミット】 ◎市内中学校の生徒会役員が一堂に会し、各校の取組を発表し、意見交換を行う取組を支援することで、次代を担う青少年の育成に寄与した。 ◎中学生＆市長トークにおいて、市長へ直に市政に関する意見を伝える機会を提供することにより、生徒の市民性の醸成に資することができた。 【青少年健全育成講演会】 ◎青少年問題について、市民の関心を深めることができた。	◆六中サミット研修会、発表会 ・活動支援のため補助金を交付 ・共催事業として事業実施を支援 「六中・生徒会サミット実践発表会」 実施予定日　令和3年8月19日(木)参加予定者　75人 「六中・生徒会サミット研修会」実施予定日　令和3年12月4日(土) 「青少年健全育成講演会」 実施予定日　令和4年1月22日(土)
	◎自治会との情報共有・連携	◆自治会との情報共有・連携 ・地域活動指導員による地域活動への訪問 ・地域活動指導員だより「らいん」の発行(年2回)	《自治会との情報共有・連携》 【地域活動指導員による地域活動への訪問・情報発信・運営支援】 ◎地域活動指導員による地域活動への訪問、情報発信、運営支援を通して、自治会との情報共有・連携を図ることができた。	◆自治会との情報共有・連携 ・地域活動指導員による地域活動への訪問[通年] ・地域活動指導員だより「らいん」の発行[9月、2月頃]

中項目(4) 学びの場づくりの推進

小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
①青少年の感性を磨く機会の提供	◎弥生の里児童画大賞展	◆弥生の里児童画大賞展 ・出品数　4,284点(うち市内学校からの応募　2,077点) ・入選・入賞　278点(うち市内受賞108点) ・展示会　令和2年12月8日(火)～12月20日(日) ・授賞式　令和2年12月12日(土) 【新型コロナウイルス感染症対応】 展示会では、土日に監視員を配置し、入場者の入退出管理、定期的な消毒・換気、距離を空けての鑑賞の周知を徹底した。授賞式では、参加者を47名→17名に制限し、消毒・換気の徹底、時間の短縮等を行った。	《弥生の里児童画大賞展》 ◎コロナ禍においても、前向きな気持ちで自由に表現できるよう、募集テーマを「だいすきを描こう」に設定し、昨年度を大きく上回る4,284点の作品が集まった。 ◎テーマから発想を広げ、自分の好きなものをいきいきと表現した作品が多く集まり、子どもたちの豊かな想像力や独自性を高めることができた。 ◎コロナ禍でも受賞者には、自身の作品が選ばれたという喜びや自己肯定感を、また来場した市民には、子どもたちの生き生きとした絵画作品に触れる機会を提供した。 ⇒30周年を節目とした、今後の事業のあり方の検討	◆弥生の里児童画大賞展[12月] ・募集期間　令和3年7月13日(火)～9月17日(金) ・テーマ「わくわくをかこう～わたしのゆめ～」 ・展示会　令和3年12月7日(火)～12月19日(日) ・授賞式　令和3年12月11日(土) ・これまでの実績と成果をふまえ目的や実施方法等の見直しを行うため、審査委員を含めた事業検討会の実施[5・6月] ・30周年記念事業の実施 ①記念賞3賞の追加 ②ワークショップの実施[9月]
	◎実行委員会形式による成人式	◆実行委員会形式による成人式 ・実行委員会11回実施(人権学習会含む) ・実施日　令和3年1月11日(月) ・実行委員数　8人 ・参加者　908人(対象者の67.86%) 【新型コロナウイルス感染症対応】 二部制、事前申込制の導入やスタッフの増員などの感染拡大防止措置を徹底して、実施した。	《実行委員会形式による成人式》 ◎実行委員が主体的に式典を企画し、運営することで、成人して社会に参画することを意識する契機となり、実行委員自身が成長を実感する場を提供することができた。 ◎クローバープラザへ会場変更したが、大きな混乱はなく、円滑な事業実施をすることができた。 ◎新型コロナウイルス感染拡大の中、二部制、事前申込制の導入やスタッフの増員などにより、無事に式典を開催した。 ⇒会場変更後の円滑な事業実施の継続的な運営 ⇒令和4年度以降の18歳に対する対応の検討	◆実行委員会形式による成人式[1月] ・日程　令和4年1月10日(月・祝) ・会場　福岡県立複合施設(クローバープラザ)※令和2年度より会場変更 ・実行委員会　令和3年8月8日(日)～
	◎学べる天文台「星の館」	◆学べる天文台「星の館」 ・来館者数　7,664人 ・ボランティア登録者数　49人 ・開館日数　135日 ※台風、大雪、新型コロナウイルス感染症の影響等により25日臨時休館 【新型コロナウイルス感染症対応】 ・受付票の記入による来館者の把握、消毒・	《学べる天文台「星の館」》 ◎専門知識を有する事業者に委託し、施設を有効に活用した事業展開を実施することで、青少年の天体への興味関心を高めることができた。 ◎幅広い年代のボランティアの活躍により、青少年だけでなく様々な世代に対し、天文に関する学びの機会を提供できた。また同	◆学べる天文台「星の館」[通年] 【通常開館日】158日 ※毎週金、土、日曜日(12月28日～1月4日を除く 【特別開館(通常開館外)】 ・令和3年8月12日(水)ペルセウス座流星群観望会 ・令和3年9月21日(火)中秋の名月観望会

		換気の徹底。 ・感染拡大状況に応じ、混在時の入場制限、利用時間の制限の実施。 ・休館中には天文や星の館に関する情報をＳＮＳや動画により配信。	時に世代間交流も図ることができた。 ◎休館中でも天文や星の館に関する情報をＳＮＳや動画により配信することで、自宅でも学べる機会の提供ができた。 ⇒情報提供等の多様な手法を調査研究する ⇒10周年の周年事業の実施	・令和3年12月14日(火)ふたご座流星群観望会 ・10周年特別イベントの実施[10月]
小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
②学びの循環による地域人材の育成	△実践につなぐ地域活動学習講座	◆令和3年度の事業企画 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆講座の回数、規模、内容等の縮小、開催時期の延伸等により実施を模索したが、講座は中止とした。 ◆単発の公開講座として3月の実施を計画したが、中止とした。	⇒講座の在り方について検討し、50歳代、60歳代を地域活動につなぐ講座とするため、令和3年度は、土曜日に講座を開催することとした。	◆地域活動学習講座[11月～3月、4回] 50歳代、60歳代を地域活動につなぐ講座とするため、関心の高いセカンドライフをテーマに、土曜日に開催するよう計画
小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
③学びの循環による市民活動の機会の拡充	◎社会教育関係団体等への支援	◆社会教育関係団体登録数　19団体 ・市施設の使用料の免除(半額)及び市報掲載等の広報による活動の支援 ◆補助金交付実績 ・社会教育関係団体6団体及び社会教育関係団体連絡協議会　計7団体 ・補助金総額　13,306208円 ◆人権研修講師謝金補助金交付実績 ・実施団体(登録団体)　6団体 ・補助金総額　6,600円 (対象：登録団体及び小中学校ＰＴＡ) 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆少年の船事業が中止となったため、当該事業への補助金は交付しなかった。 ◆婦人会事業が一部中止となったため、補助金の一部を返還した。	◎新型コロナウイルス感染症の影響により多くの団体が活動を中止したが、感染防止対策の情報提供などにより、一部ではあるが団体活動の継続を支援することができた。 ⇒高齢社会の進展、価値観の多様化等を踏まえ、社会教育関係団体及び社会教育関係団体連絡協議会の活動の持続性と活性化が図られる効果的な支援方策の検討	◆社会教育関係団体等への支援 ・社会教育関係団体登録 19団体 ・活動支援 ・市施設の使用料の免除(半額)による活動の支援 ・市報の掲載等広報活動の支援 ・補助金交付(8団体) ・社会教育関係団体7団体及び社会教育関係団体連絡協議会 ・登録団体への人権研修実施(講師謝金補助) ◇支援方策の検討 ・情報連携を進めるため，社会教育関係団体等のメールアドレスの登録[6月] ・ＩＣＴ活用アンケート調査 ・社会教育関係団体等の活動におけるＩＣＴの活用と課題の把握[7・8月](ＩＣＴ以外の課題も把握) ・調査結果に基づく支援方策の検討[9月～]

■大項目［2］読書のまちづくり

1　施策の達成度(自己評価)　【4：十分な成果が見られる。3：一定の成果が見られる。2：成果が不十分である。1：成果が見られない又は未実施。】

大項目	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	備考(評価の視点、評価指標等)	担当課
［2］読書のまちづくり	2.8	(1) 生涯の学びとくらしに役立つ図書館づくりの促進	2.3	①課題解決型図書館としての機能の充実	3	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　2項目中1項目実施 ・地域資料のデジタル化を進めることにより、自宅からでも随時地域資料を活用することができるようになり、市民の利便性が向上した。 ・新型コロナの影響で、ほぼすべての図書館活用講座が中止となったが、館内で市民の課題に沿ったテーマ特集を実施し、課題解決型図書館としての機能の充実を図った。	地域教育課
				②誰もが図書館サービスを受けられる環境整備	3	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　2項目中2項目実施 ・サピエ図書館へ入会し、デイジー図書の視聴体験の機会を提供するなど、視覚等に障がいがある人へのサービスの紹介を行った。 ・移動図書館の運用により、市内全域サービスを実現している。	地域教育課
				③ボランティアとの連携	1	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　2項目中0項目実施 ・新型コロナの影響により、図書館サポーターによる図書館支援活動は実施できなかった。 ・市民参加型事業(ボランティアとの連携事業)である「夜の図書館」は実施できず、パネル展示のみとなった。	地域教育課
		(2) 子どもの読書活動の推進	3.5	①市民図書館による子どもの読書活動の推進	3	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　5項目中4項目実施 ・図書館ひみつクラブ(小学生向けの新規事業)を実施することができた。 ・図書館を使った調べる学習地域コンクール及び関連講座を実施し、子どもたちが調べる力を身に付けるための学習支援を行った。 ・ファーストブック事業として、対象者に絵本の配付を行った。 ・0、1歳向けのおはなし会は、実施できなかった。 ・読書ボランティア講座は、実施回数を減らして実施した。	地域教育課
				②学校図書館の読書センター、学習センター、情報センター機能の充実	4	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　4項目中4項目実施 ・学校図書館教育全体計画の充実 ・学校司書の勤務日を拡充し(小学校)、学校図書館支援員配置(中学校)を行った。 ・木製備品を購入し、児童生徒が親しめる学校図書館の環境整備を行った。 ・読書ボランティアによる通常の読み聞かせは実施できなかったが、動画配信などを通した読書活動が行われた。	地域教育課

2　施策の実施状況

中項目(1)　生涯の学びとくらしに役立つ図書館づくりの促進

小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
①課題解決型図書館としての機能の充実	◎地域資料のデジタル化 △図書館活用講座	◆地域資料のデジタル化 ・「写真でたどるなつかしい春日」と題して、春日市の昔の写真(小中学校18校分)を追加でデジタル化し、市図書館ホームページで公開 【新型コロナウイルス感染症対策】 ◆図書館活用講座の実施 ・郷土講座(中止) ・健康講座(中止) ・有料データベース講座(中止) ◆市民図書館の臨時休館 ・前年度2月29日(土)から引き続き、5月25日(月)まで休館	《地域資料のデジタル化》 ◎地域資料のデジタル化を進めることにより、自宅からでも随時地域資料を活用することができるようになり、市民の利便性が向上している。 ⇒継続して地域資料のデジタル化を進め、関係所管課等と連携を図り、内容の充実を図る。 《図書館活用講座実施》 △新型コロナの影響で、ほぼすべての図書館活用講座が中止となった。 ⇒オンライン開催や動画配信などの代替策の検討	《生涯の学びとくらしに役立つ地域の情報拠点としての図書館機能の充実》 ◆親しみやすく利用しやすい窓口[通年] ◆市民の本棚としての本や雑誌などの充実[通年] ◆調べものカウンターの相談体制の充実[通年]

小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
②誰もが図書館サービスを受けられる環境整備	◎視覚障がい者等の図書館利用に係る体制整備 ◎移動図書館たんぽぽ号の運行(19か所)	◆視覚障がい者等の図書館利用に係る体制整備 ・サピエ図書館への入会 ・朗読ＣＤの購入 ◆移動図書館たんぽぽ号の運行(19か所) ・週4日で19か所のステーションを巡回 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆移動図書館の臨時運休 ・4月9日(木)から5月25日(月)まで運休 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆電子図書館サービスの開始(6月) 対象登録者427名　貸出回数1,813冊 ◆本の郵送サービスの開始(6月) ◆サーマルカメラの設置	《視覚障がい者等の図書館利用に係る体制整備》 ◎サピエ図書館を活用したデイジー図書の視聴体験を実施するなど、視覚障がい者等の図書館利用に係る体制整備に努めた。 《移動図書館たんぽぽ号の運行(19か所)》 ◎市民図書館の休館中(4月1日～5月18日)も移動図書館を運行し、図書館サービスを継続することができた。 ◎図書館の臨時休館や滞在時間の制限などへの対策として、来館することなく図書館サービスを享受できる電子図書館サービスを開始した。 ⇒電子書籍コンテンツの充実	《誰もが図書館サービスを受けられる環境整備》 ◆移動図書館たんぽぽ号の利用促進[通年] ◆電子図書館の利用促進[通年] ◇ＷＥＢ版市民図書館の利用に関するアンケートの実施[実施時期未定]

小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
③ボランティアとの連携	△図書館サポーターによる図書館支援活動 △夜の図書館	【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆図書館サポーターによる図書館支援活動 ・図書館サポーター講座(中止) ◆小学校読書ボランティア交流会の実施(中止) 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆夜の図書館(中止) ・代替事業として、「ふりかえり夜の図書館」と題し、過去9年間の夜の図書館の様子を写真でパネル展示	《図書館サポーターによる図書館支援活動》 △感染拡大防止のため、日常的なサポーター活動は中止した。 ⇒感染対策を行い、活動の再開に努める。 ≪夜の図書館≫ △不特定多数が参加する事業であるため、実施は困難だった。 ⇒安心して市民が参加できる代替事業の検討	《人がつながる本のある広場》 ◇新たな活動内容による図書館サポーターの新規募集［実施時期未定］ ◆健康講座など連携事業の実施［実施時期未定］ ◆夜の図書館など市民参加型事業の実施［実施内容、実施時期未定］

中項目(2) 子どもの読書活動の推進

小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
①市民図書館による子どもの読書活動の推進	◎図書館クラブ ◎春日市図書館を使った調べる学習コンクール、講座実施 ◎ファーストブック事業 △年齢別おはなし会	◆としょかん秘密クラブの開催(3回) ・小学生限定　参加者　19名 ◆図書館を使った調べる学習地域コンクール ・興味のあることを図書館で調べてまとめる学習コンクールを実施 ・応募総数　28作品 うち2点を全国コンクールに推薦し、奨励賞と佳作を受賞 ◆図書館を使った調べる学習講座実施 ・調べる学習の始め方、テーマの決め方、図書館での調べ方、まとめ方に関する講座を開催し、一人1作品を作成 ・令和2年7月25日・26日 小学校3・4年の部(4名参加) 小学校5・6年の部(2名参加) ◆ファーストブック事業 ・年24回、参加者数　900組 →4ヶ月健診中止に伴い中止。絵本の郵送のみ実施 ◆年齢別おはなし会の実施 ・3歳からのおはなし会(年11回)	《としょかん秘密クラブ》 ◎小学生向けおはなし会に替わる新規事業であり、参加者に好評だった。 《図書館を使った調べる学習地域コンクール、講座実施》 ◎講座を通して、図書館を活用した調べ方、まとめ方のコツを体験してもらうことができ、情報活用力の向上を図ることができた。 ⇒学校図書館との連携を強化し、より多くの児童生徒の調べる学習コンクールへの参加を促進する。 《ファーストブック事業》 ◎4ヶ月健診会場での読み聞かせ等は実施できなかったが、絵本の配送を通し、親子のコミュニケーションツールとしての絵本の有効性について継続的に啓発することができた。 《年齢別おはなし会》 △0、1歳向けのおはなし会は全く実施するこ	《図書館活用による多様な学びの支援》 ◆春日市図書館を使った調べる学習地域コンクールの普及［7・8月］ 《家庭・地域における子どもの読書活動の推進》 ◆ファーストブック事業の実施(絵本の配送のみ実施)［通年］

	◎読書ボランティア講座	【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆年齢別おはなし会の実施 ・0歳、1歳からのおはなし会(中止) ◆読書ボランティア講座の実施 ・初心者コース(全2回) ・10月実施、参加者数　28人 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆読書ボランティア講座の実施 ・経験者コース(中止) 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆ネットで学べる「図書館を使った調べる学習」というＷＥＢページを作成し、子どもの自宅学習を支援した。	とができなかった。 ⇒事業の再開あるいは代替事業を検討する。 《読書ボランティア講座》 ◎初心者向けの講座を実施することができ、読書ボランティアを養成することができた。	◆読書ボランティア講座の実施 ・5月に読み聞かせ講座を実施済 ・9、10月に学校向け講座を実施予定
小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
②学校図書館の読書センター、学習センター、情報センター機能の充実	◎学校図書館教育全体計画の充実 ◎学校司書の勤務日拡充(小学校)・学校図書館支援員配置(中学校) ◎児童生徒が親しめる学校図書館の環境整備の推進 ◎読書ボランティアによる小学校での読み聞かせ	◆学校図書館教育全体計画の充実 ・学校図書館支援業者を通して、毎月、中学校図書館の全体計画の進捗管理を行った。 ◆学校司書の勤務日拡充(小学校)・学校図書館支援員配置(中学校) ・小学校司書の勤務日を週5日に拡充。 ・中学校に学校図書館支援員を配置し、年150日以上の勤務に拡充した。 ◆児童生徒が親しめる学校図書館の環境整備の推進 ・森林環境譲与税を活用した学校図書館の環境整備(春日中学校、天神山小学校) 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆読書ボランティアによる小学校での読み聞かせの実施(学校別に延期もしくは中止)	《学校図書館教育全体計画の充実》 ◎学校図書館の機能を明確にし、各校の学校図書館全体計画に反映することができた。 《学校司書の勤務日拡充(小学校)・学校図書館支援員配置(中学校) 》 ◎昨年度より学校司書及び学校図書館支援員の配置時間を増やすことにより、読書支援や授業支援を進めることができた。 《児童生徒が親しめる学校図書館の環境整備の推進》 ◎中学校図書館に展示用の書棚(展示架)を導入することにより、学校図書館の環境整備を推進した。 《読書ボランティアによる小学校での読み聞かせの実施》 ◎おはなし会の動画配信などを試行的に実施した学校もあり、コロナ禍の子どもたちの心のケアにもつながった。	《学校図書館の学習センター、情報センター、読書センター機能の充実》 ◇授業での学校図書館の活用を促進するための支援資料収集[通年] ◆小学校司書及び中学校図書館支援員の全校配置[通年] 《学校における子ども読書活動の推進》 ◆学級文庫、図書館だよりなど学校における子どもの読書推進事業の実施[通年]

3 文化財の保護・教育資産としての活用促進

■大項目［1］文化財保護による次世代への継承

1 施策の達成度(自己評価) 【4：十分な成果が見られる。3：一定の成果が見られる。2：成果が不十分である。1：成果が見られない又は未実施。】

大項目	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	備考(評価の視点、評価指標等)	担当課
［1］文化財保護による次世代への継承	3.3	(1) 文化財情報の収集及び記録保存のための調査等の実施	3.0	①埋蔵文化財の調査と記録の作成	3	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況 3項目中[3]項目実施 ・大土居水城跡の樹木整理及び確認調査を実施し、今後の整備に向けた実施設計の準備が整った。 ・史跡須玖岡本遺跡にて、地中レーダー探査の結果を基に、確認調査を実施し、青銅器工房の可能性がある住居跡を発見することができた。 ・遺跡発掘調査により市の歴史的資料の保存に寄与することができた。	文化財課
				②民俗文化財の情報収集	3	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況 2項目中[2]項目実施 ・民俗文化財調査専門員を継続的に配置し、保管する民俗文化財の再調査を効果的に行うことができた。 ・民俗文化財を春日北小に一部移転させ、子ども達の地域への愛着心の醸成等に寄与することができた。	文化財課
		(2) 文化財の保存・管理	4			●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況 2項目中[2]項目実施 ・須玖岡本遺跡岡本地区20次調査で出土した銅剣・青銅製把頭飾・甕棺を市指定の文化財とすることができた。 ・文化財専門委員会を開催し、本市文化財について、文化財専門員の専門的な見地から貴重な助言等を得ることができた。	文化財課

2 施策の実施状況

中項目(1) 文化財情報の収集及び記録保存のための調査等の実施

小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
①埋蔵文化財の調査と記録の作成	◎特別史跡水城跡(大土居西側土塁等)の確認調査 ◎史跡須玖岡本遺跡(岡本地区)の確認調査 ◎遺跡発掘調査及び報告書作成	◆樹木整理や発掘調査を実施し、大土居水城跡の土塁整備に向けた確認調査を実施(樹木伐採22本) ◆元年度に実施した地中レーダー探査を基に、確認調査を実施(1か所115.6㎡) ◆遺跡発掘調査の実施(窓口審査1,494件、試掘調査66件、本調査10件) ◆報告書作成業務(遺物実測等)の一部を民間業者に委託(1件) ◆報告書等の発行(5件)	◎大土居水城跡の樹木整理により史跡の展望性を確保することができ、確認調査によって今後の整備に向けた実施設計の準備が整った。 ◎確認調査により、青銅器工房の可能性がある住居跡を発見することができた。 ◎遺跡発掘調査により市の歴史的資料の保存に寄与することができた。 ⇒委託業務の内容等についての検討を続け、より効果的な手法を構築する必要がある。	◆大土居水城跡の保存整備基本設計業務の実施[通年] ◆地中レーダー探査及び確認調査の実施[通年] ◆遺跡発掘調査及び報告書作成[通年]

小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
②民俗文化財の情報収集	◎民俗文化財調査専門員による聴き取り調査 ◎民具、古文書等の情報収集	 ◆民具、古文書等の情報収集(通年) ◆民俗収蔵庫及び資料館にある民俗文化財を春日北小に一部移転し、奴国資料室を設置(計229点)	◎民俗文化財調査専門員を継続的に配置することで、保管する民俗文化財の再調査を行うことができた。 ◎民俗文化財を春日北小に一部移転させることにより、子ども達の地域への愛着心の醸成及び民俗文化財の収蔵に寄与した。 ⇒民俗文化財利用者の高齢化に伴い、聴き取り調査が難しくなってきている。	◆民俗文化財調査専門員による聞き取り調査[通年] ◆民具、古文書等の情報収集[通年]

中項目(2) 文化財の保存・管理

小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
	◎文化財の市指定化の推進 ◎文化財専門委員による指導・助言の活用	◆須玖岡本遺跡岡本地区20次調査にて出土した銅剣・青銅製把頭飾・甕棺を市指定の文化財とした。(計4点) ◆文化財専門員の活用(全体会1回、考古部会1回、個別助言1回、特別史跡水城跡(大土居・天神山)整備部会2回、史跡須玖岡本遺跡調査研究部会2回)	◎須玖岡本遺跡での出土品を市指定の文化財とすることができた。 ◎本市文化財について、文化財専門員の専門的な見地から貴重な助言等を得ることができた。 ⇒今後も文化財の保存、活用について、文化財専門員からの助言等を活用し、着実に進捗させていく必要がある。	◆文化財の市指定化の推進[通年] ◆文化財専門員の指導・助言の活用[通年]

■大項目［2］文化財の活用

1　施策の達成度(自己評価)　【4：十分な成果が見られる。3：一定の成果が見られる。2：成果が不十分である。1：成果が見られない又は未実施。】

大項目	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	備考(評価の視点、評価指標等)	担当課
［2］文化財の活用	3.3	(1) 春日市の文化財に対する理解の促進	3.5	①文化財等の周知	4	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　5項目中[3]項目実施 ・トピック展示「市指定化記念展示」を開催することにより、効果的な周知を行うことができた。 ・市報・ウェブサイト等により積極的に情報発信を行い、市内外に向けて本市文化財をＰＲすることができた。 ・感染症対策に留意したフェスタ等の開催手法を継続して検討していく必要がある。	文化財課
				②文化財への関心を高める機会の提供	3	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　5項目中[5]項目実施 ・企画展や体験教室等の各種資料館事業の開催や出前講座の実施により、幅広い世代に向けて文化財にふれてもらう機会を提供することができた。 ・一般団体の見学や学習支援等について円滑に対応することができた。 ・文化財ボランティアが高齢化、固定化しているため、新たなボランティア育成についての検討が必要である。 ・文化財への関心を高めるための事業を引き続き実施していく必要がある。	文化財課
		(2) 遺跡、文化財施設等の活用促進のための整備	3			●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　2項目中[2]項目実施 ・遺跡地の定期的な点検や管理等を実施し、文化財の保護及び良好な見学環境の維持を図ることができた。 ・今後も継続し、遺跡等の活用促進のための整備を実施していく必要がある。	文化財課

2　施策の実施状況

中項目(1) 春日市の文化財に対する理解の促進

小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
①文化財等の周知	◎市指定化記念展示(須玖岡本遺跡・須玖タカウタ遺跡遺物)	◆トピック展示「市指定化記念展示」の開催(来館者620人)	◎トピック展示を開催することにより、須玖岡本遺跡・須玖タカウタ遺跡遺物を効果的に周知することができた。	◆市指定化記念展示(須玖岡本遺跡岡本地区20次調査出土銅剣・青銅製把頭飾・甕棺)[[5/1～6/30]
	◎市報、ウェブサイト等	◆市報かすがへの文化財関連記事掲載(イベント周知12回、その他3回) ◆資料館ウェブサイトでの継続的な情報の発信(随時)	◎市報かすがやウェブサイトを活用した積極的な情報発信や各種パンフレット作成により、本市文化財の魅力を継続的に発信することができた。	◆市報、ウェブサイト等の活用[通年]
	◎各種啓発パンフレット等の作成・活用	◆各種啓発パンフレットの作成、小学校等への配布(随時)		◆各種啓発パンフレット等の作成・活用[通年]
	△奴国の丘フェスタ △市内商工店会、ＪＲ等と連携したＰＲ	【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆奴国の丘フェスタの開催延期	△新型コロナウイルス感染症の状況により、奴国の丘フェスタ等を開催することができなかった。 ⇒感染症対策に留意したフェスタ等の開催手法を継続して検討していく必要がある。	◆奴国の丘フェスタ[延期]

小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
②文化財への関心を高める機会の提供	◎考古・民俗企画展、わくわく歴史体験、やきもの作り教室、ブラかすが歴史散歩	◆奴国の丘歴史資料館での文化財展示(来館者6,213人) ◆ウトグチ瓦窯展示館での文化財展示(来館者554人) ◆やきもの作り教室(年間4回　35人) ◆わくわく歴史体験(年間5回　118人) ◆図書館別置展「資料館事業の紹介」(通年) ◆考古企画展「春日市の遺跡から出土した木製品」(9月19日～11月1日　来館者　843人) ◆特別展示「明らかになった奴国のおもり」(1月5日～2月15日　来館者　982人) ◆民俗企画展「ナニコレ！？民俗展」(1月16日～2月28日　来館者　1,231人)	◎奴国の丘歴史資料館や図書館での常設展示や企画展を計画的に開催することにより、本市文化財について広く周知することができた。	◆奴国の丘歴史資料館での文化財展示[通年] ◆図書館別置展[通年] ◆ウトグチ瓦窯展示館での文化財展示[通年] ◆やきもの作り教室[年12～16回] ◆ブラかすが歴史散歩[10月・11月(年2回)] ◆わくわく歴史体験[年6回] ◆考古企画展「発見！！弥生時代の権－奴国の王都須玖群のおもり－」[8/21～9/26] ◆民俗企画展[1/29～3/13]
	◎学習支援(見学・体験)	◆学校による施設見学の受け入れ(計21回1,607人)	◎学校による施設見学の受入れを行い、要望に応じて体験教室も行う等、学校教育支援に寄与した。	◆学校による施設見学[通年] ◆学習コンテンツ「おうち de 資料館」の運用・周知［通年］
	◎歴史文化を学ぶ遺跡見学	◆一般団体による施設見学の受け入れ(16件211人)		◆歴史文化を学ぶ遺跡見学[通年]
	◎地域への出前講座	◆学校・地域への出前講座の実施(学校12件780人、地域9件93人)	◎各種団体からの出前講座等の要望にも可能な限り応じ、本市文化財の魅力を分かりやすく伝え、文化財についてより深く理解してもらうことができた。	◆地域への出前講座[通年]
	◎ガイド・やきものボランティア等との協働	◆ガイド・やきものボランティアとの協働(通年) 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆各種講座を事前予約制にしたり、人数制限等を設けたりするなど感染症対策に留意し、効果的に事業を展開することができた。	◎文化財ボランティアの協力も得て、各種体験事業を行い、文化財の更なる普及啓発を図ることができた。 ⇒文化財ボランティアが高齢化、固定化しているため、新たなボランティア育成についての検討が必要である。 ⇒文化財への関心を高めるための事業を引き続き実施していく必要がある。	◆ガイド・やきものボランティアとの協働[通年] ◇新たなガイドボランティアの育成を行うため、公募を実施する。[1月～] ◇奴国の丘歴史資料館名誉館長の設置

中項目(2) 遺跡、文化財施設等の活用促進のための整備

小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
	◎天神山水城跡樹木伐採 ◎史跡地の樹木管理等	◆天神山水城跡の樹木伐採を実施(樹木伐採56本及びしがら設置) ◆シルバー人材センター等への委託により、史跡地の清掃、草刈、樹木消毒等を実施(通年) ◆職員による史跡地の定期点検(通年)	◎天神山水城跡の樹木伐採を進め、史跡地の活用を進めることができた。 ◎史跡地の定期的な点検や管理等を実施し、文化財の保護及び良好な見学環境の維持を行った。 ⇒今後も継続して、遺跡等の活用促進のための整備を実施していく必要がある。	◆大土居・天神山水城跡の樹木伐採の実施[通年] ◆委託による史跡地の清掃、草刈、樹木消毒等を実施[通年] ◆職員による史跡地の定期点検[通年]

4 教育環境づくりの推進

■大項目［1］児童生徒への個別支援

1 施策の達成度(自己評価) 【4：十分な成果が見られる。3：一定の成果が見られる。2：成果が不十分である。1：成果が見られない又は未実施。】

大項目	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	備考(評価の視点、評価指標等)	担当課
［1］児童生徒への個別支援	3.3	(1) 家庭環境に応じた就学、子育て支援	3			●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況 1項目中[1]項目実施 ・様々な機会、媒体を通じて、就学援助制度の周知を行った。	学校教育課
		(2) 教育と保健・福祉の一体的な支援	3			●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況 2項目中2項目実施 ・就学相談の福祉との窓口一本化 ・要保護児童対策地域協議会との連携強化	学校教育課
		(3) 子どもの実態に応じた学習・登校支援	3.5	①基礎学力の定着	4	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況 1項目中[1]項目実施 ・各小学校放課後補充学習「まなびや春日」の実施	学校教育課
				②教育支援センター・スマイルルームの充実	4	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況 1項目中[1]項目実施 ・学力・進路保障に向けた教科指導等の個別支援の強化	学校教育課
				③通級指導教室の充実	3	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況 1項目中[1]項目実施 ・通級指導教室の指導環境の整備	学校教育課
				④日本語指導が必要な児童生徒への支援	3	●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況 1項目中[1]項目実施 ・日本語指導補助員の配置とその活用	学校教育課

2 施策の実施状況

中項目(1) 家庭環境に応じた就学、子育て支援

小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
	◎就学援助制度の円滑な実施	◆令和2年8月以降認定分から保護者の更新手続を原則不要とする自動更新を実施した。 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆就学援助の認定において、新型コロナウイルス感染症の影響を受け家計が困窮し、児童生徒の就学に支障がある世帯に対し、就学援助費を支給した。 認定数：18世帯(小学生15人、中学生12人) ◆長期の臨時休業中の保護者の昼食費の負担軽減のため、就学援助学校給食費相当額(4,000円/人)の昼食費支援金を支給した。 総支給額7,920,000円(小学生1,286人、中学生694人)	◎就学援助を必要とする世帯に対し、切れ目なく援助することができた。 ◎新型コロナウイルス感染症の影響を受け家計が困窮した世帯等に対し就学援助費を支給した。 ⇒市報、市ウェブサイト及び学校経由で配布するチラシを分かりやすく作成し、制度周知を図る。	◆就学援助制度の円滑な実施[随時]

中項目(2) 教育と保健・福祉の一体的な支援

小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
	◎就学相談の福祉との窓口一本化 ◎要保護児童対策地域協議会との連携強化	◆就学相談の対象者が福祉の発達相談を利用していた場合は、一体的に就学相談を実施 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆要保護児童対策地域協議会代表者会議は新型コロナウイルス感染症の影響で実施を見送ったものの、実務者会議については必要に応じて出席した。	◎本格的な窓口一本化となる令和3年度の発達支援室開設に向けた準備ができた。 ◎福祉部門が実施する要保護児童対策について情報共有ができた。	◆子ども発達支援室(子育て支援課発達支援担当)を開設し、窓口を一本化［4月］ ◆要保護児童対策地域協議会との連携強化［随時］

中項目(3) 子どもの実態に応じた学習・登校支援

小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
①基礎学力の定着	◎各学校ごとの放課後補充学習「まなびや春日」	◆まなびや春日の実施 ・各小学校週1日実施(主に3年生) ・1日当たりの参加者は平均12.79人	◎学校の特色に応じた学習支援が実施されている。	◆ 各学校ごとの放課後補充学習「まなびや春日」［週1日］
小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
②教育支援センター・スマイルルームの充実	◎学力・進路保障に向けた教科指導等の個別支援の強化	◆在宅制児童生徒への教育相談員・不登校専任教員による定期的家庭訪問、添削実施による個別支援の実施 ◆講師を招いての進路説明会	◎継続的に学習プリントの収受を行い、児童生徒の学習意欲の増加につなげた。 ◎児童生徒及び保護者の進路に対する不安の解消につながった。	◆学力・進路保障に向けた教科指導等の個別支援の強化［随時］ ◆児童生徒に関わる専門スタッフの専門性向上
小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
③通級指導教室の充実	◎通級指導教室の指導環境の整備	◆通級指導教室利用者 ・小学部 123名(令和2年5月) ・中学部　29名(令和2年5月)	◎個に応じた支援を実施することができた。 ◎指導の期限を設定し、退級に向けて目標を持つことで、一人ひとりの特性に応じた懸隔的な指導を行った。	◆通級指導教室の指導環境の整備［3月］ (自校指導・巡回指導等)
小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
④日本語指導が必要な児童生徒への支援	◎日本語指導補助員の配置とその活用	◆日本語指導対象者 ・小学校　7名 ・中学校　0名 ◆日本語指導補助員配置人数 ・5名	◎授業への入り込み指導や取り出しによる日本語指導を実施することができた。	◆日本語指導補助員の配置と日本語指導を実施［通年］

■大項目［2］安全で快適な空間の創造

1　施策の達成度(自己評価)　【4：十分な成果が見られる。3：一定の成果が見られる。2：成果が不十分である。1：成果が見られない又は未実施。】

大項目	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	備考(評価の視点、評価指標等)	担当課
［2］安全で快適な空間の創造	3.7	(1) 学校施設改修の計画的推進	4			●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　6項目中[6]項目実施 ・トイレの改修を実施し、洋式化、乾式化により、教育環境を改善した。 ・老朽化した遊具を更新することにより、教育環境を改善した ・施設の改修計画に基づき大規模改修を実施し、教育環境の改善及び建物の耐久性を確保した。 ・給食室の大規模改修を実施し、厨房機器の更新、床の乾式化により、調理等の作業環境を改善した。 ・増築工事を実施し、教室及び多目的ホールの整備により、教育環境を確保した。	教務課
		(2) 社会教育施設改修の計画的推進	3			●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　1項目中1項目実施 ・適切な施設管理を行うことで、天体観測を通じた青少年の健全育成及び市民の生涯学習の推進を図った。	地域教育課
			4			●当初計画(エデュケーションかすが)実施状況　2項目中[2]項目実施 ・資料館の屋上防水改修工事及び空調設備入替工事の設計が完了し、次年度の工事着工に向けた準備をすることができた。 ・資料館や関連施設の維持補修工事を実施し、見学環境の向上や史跡地の保存等に寄与することができた。	文化財課

2　施策の実施状況

中項目(1) 学校施設改修の計画的推進

小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
	◎小中学校8校トイレ改修工事 ◎小学校5校遊具改修工事 ◎春日北小学校管理棟大規模改修工事 ◎天神山小学校管理棟大規模改修工事 ◎大谷小学校屋内運動場及び給食室大規模改修工事	◆小中学校8校(春日小、春日東小、春日原小、春日西小、須玖小、春日南小、春日中、春日西中)のトイレ洋式化、乾式化 ◆小学校5校(春日小、春日東小、春日西小、須玖小、天神山小)の大型遊具等更新 ◆小学校2校(春日北小、天神山小)管理棟の外壁改修、内部改修 ◆大谷小屋内運動場及び給食室の外壁改修、内部改修 ◆大谷小のエレベーター及び多目的トイレ整備	◎トイレが老朽化した8校の改修を行い、教育環境を改善することができた。 ◎遊具が老朽化した5校の改修を行い、教育環境を改善することができた。 ◎春日北小、大谷小、天神山小の大規模改修を実施し、教育環境の改善及び施設の長寿命化を図ることができた。 ◎大谷小の給食室の大規模改修を行い、調理等の作業環境を改善することができた。	◆春日北小学校給食室大規模改修工事[6～1月] ◆大谷小学校管理棟大規模改修工事［6～11月] ◆春日南中学校大規模改修工事（第1期）[5～10月] ◆春日北中学校航空騒音防止対策工事[6～1月]

	◎春日南中学校校舎増築工事	◆春日南中の3教室及び多目的ホールの増築	◎春日南中に教室及び多目的ホールを整備し、教育環境を確保することができた。 ⇒今後も計画的に継続し大規模改修を行い、教育環境の改善、施設の長寿命化を図る必要がある。	

中項目(2) 社会教育施設改修の計画的推進

小項目	令和2年度の当初計画(ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝかすが) (◎：実施　△：未実施)	令和2年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和2年度の成果と課題(方向) (◎：成果　△：課題　⇒：方向)	令和3年度の取組状況 (◇：新規　◆：継続)
	◎星の館の維持管理	◆星の館観測棟前風徐室屋根修繕(10月) 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆来館者の把握(受付票の記入)、消毒・換気の徹底、混在時の入場制限、利用時間の制限等を行い、感染拡大防止対策を行った。	◎専門性の高い業者に天体観測機器の操作及び管理等を委託することで、施設の不具合を早期発見、早期対応することができた。 ⇒委託事業者との施設管理運営に関する定期的な協議。 ⇒計画的な施設維持補修計画の検討。	◆星の館の維持管理[通年] ◇大型備品維持管理計画の策定[5～6月]
	◎奴国の丘歴史資料館の空調設備入替工事及び屋上防水改修工事の設計監理 ◎奴国の丘歴史資料館等の維持管理	◆屋上防水改修工事及び空調設備入替工事の設計監理を実施 ◆資料館内の照明改修工事を実施(3件) ◆その他関連施設(公園、史跡地等)内の維持補修工事等を実施(6件)	◎防水機能が低下した資料館の屋上防水改修工事及び老朽化した空調設備入替工事の設計が完了し、次年度の工事着工に向けた準備をすることができた。 ◎資料館や関連施設の維持補修工事を実施し、見学環境の向上や史跡地の保存等に寄与することができた。 ⇒今後も大規模改修や維持補修工事を計画的に実施し、資料館や関連施設の機能を維持していく必要がある。	◆資料館の屋上防水工事及び空調入替工事の実施[(10月～1月予定)] ※工事期間中、資料館は臨時休館 ◆資料館や関連施設の維持補修工事の実施[随時]

第５　令和2年度コミュニティ・スクール進捗状況評価

1　評価の目的

(1) 各学校において現状確認の機会とし、取組のアイデアや改善点を見出すこと。

(2) 評価について学校運営協議会で議論を行い、方向性の共通理解を図ること。

2　評価方法

(1) 各小中学校の学校運営協議会委員、教職員を対象に4 段階で評価をしています。

（評価対象期間は、令和2年4月～令和3年3月。ただし臨時休校期間を除く）

(2) 評価の観点は、次に示すとおりです。

Ⅰ　共育文化醸成の進捗状況

1　コミュニティ・スクールの組織と運営

2　学校の目標・課題の四者による共有化

3　学校と保護者・地域住民との双方向の関係構築

4　コミュニティ・スクールの認知

Ⅱ　開かれた教育活動等の進捗状況

1　地域連携カリキュラム(教育課程内の活動)の整備・取組

2　学校・家庭・地域による各種連携活動(教育課程外の活動)取組

3　地域に開かれた学校情報

Ⅲ　コミュニティ・スクールによる成果

1　学校経営・運営の進捗状況

2　子どもの育ちの状況

3　保護者の子ども･学校･地域等への関心の状況

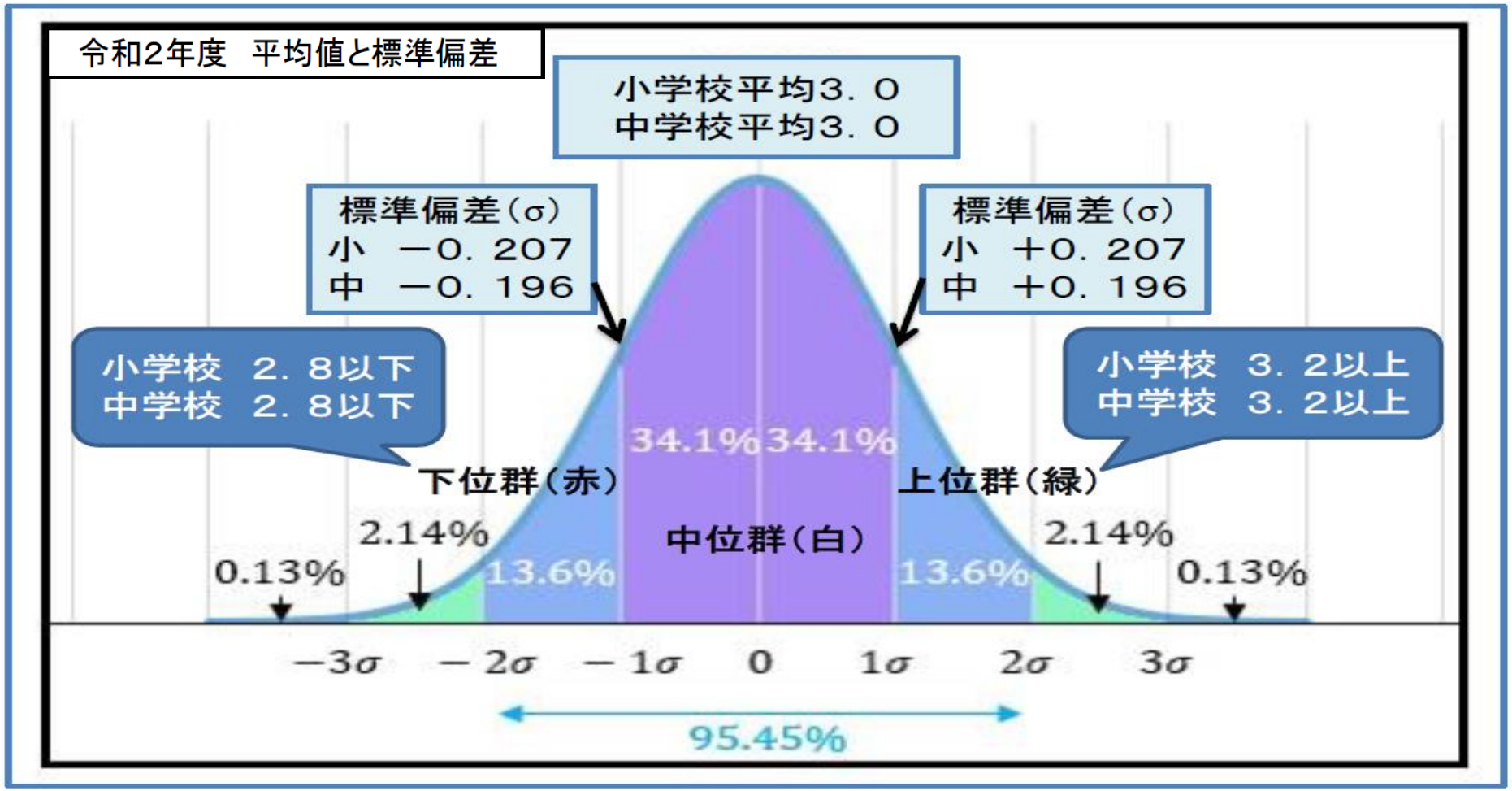
(3) 学校運営協議会における学校関係者評価に合わせて実施することで、提示された学校の自己評価や保護者、地域、児童生徒アンケート等の客観的なデータに基づいた評価としています。

(4) 評価の実効性・客観性を高めるため、電子申請による評価を実施し、評価者の拡大(委員以外の保護者や地域住民)を勧奨しています。

3　評価結果の算出方法

(1) 各評価小項目及び評価小項目全体の平均値、さらに、その標準偏差を集計しています。

(2) (平均＋標準偏差)以上のグループを「上位群」の小項目とします。(令和2年度小学校3.2以上、中学校3.2以上、令和元年度小学校3.3以上、中学校3.5以上)
(平均－標準偏差)以下のグループを「下位群」の小項目とします。(令和2年度小学校2.8以下、中学校2.8以下、令和元年度小学校2.9以下、中学校3.1以下)
それ以外のグループを「中位群」の小項目とします。（「上位群」は網掛け、「下位群」は白抜きで記載）



4　評価結果表

(1) 小学校

4段階評価[4：そう思う　3：概ねそう思う　2：あまりそうは思わない　1：思わない]

Ⅰ　共育文化醸成の進捗状況	R2年度後期	R1年度後期	前回との差
1　コミュニティ・スクールの組織と運営	2.8	3.2	−0.4▼
①　学校運営協議会での協議や熟議は充実していますか。	3.1	3.4	−0.3▼
②　学校運営協議会に子どもたちが参加していますか。	2.4	3.1	−0.7▼
③　実働推進組織や支援組織等による取組は進んでいますか。	3.0	3.2	−0.2▼
2　学校の目標・課題の四者による共有化	3.0	3.1	−0.1▼
①　学校運営協議会で学校の教育目標や経営の基本方針、課題等を共有できていますか。	3.2	3.2	0.0
②　子どもたちは、めざす子どもの姿を知っていますか。	3.0	3.1	−0.1▼
③　教職員と学校の教育目標や経営の基本方針、課題等を共有できていますか。	3.2	3.2	0.0
④　保護者と学校の教育目標や経営の基本方針、課題等を共有できていますか。	2.8	2.9	−0.1▼
⑤　自治会(地域)と学校の教育目標や経営の基本方針、課題等を共有できていますか。	3.0	3.1	−0.1▼
3　学校と保護者・地域住民との双方向の関係構築	3.3	3.4	−0.1▼
①　地域は、学校の教育活動に協力的ですか。	3.4	3.5	−0.1▼
②　保護者(ＰＴＡ)は、学校の教育活動に協力的ですか 。	3.3	3.2	0.1△
③　管理職や教職員は、地域の行事や活動等に協力的ですか 。	3.2	3.5	−0.3▼
④　地域コーディネーターは、学校と地域とのつなぎ役になっていますか。(地域 CD 配置校のみ)	3.4	3.4	0.0
4　コミュニティ・スクールの認知	2.9	3.0	−0.1▼
①　ＣＳの目的や仕組み、取組について、教職員へ周知されていますか。	3.2	3.2	0.0
②　ＣＳの目的や仕組み、取組について、子どもへ周知されていますか。	2.7	2.9	−0.2▼
③　ＣＳの目的や仕組み、取組について、保護者へ周知されていますか。	2.9	2.9	0.0
④　ＣＳの目的や仕組み、取組について、地域・市民(保護者以外)へ周知されていますか。	2.7	2.9	−0.2▼
Ⅱ　開かれた教育活動等の進捗状況	**R1年度後期**	**H30年度後期**	**前回との差**
1　地域連携カリキュラム(教育課程内の活動)の整備・取組	3.1	3.2	−0.1▼
①　外部人材を活かしたカリキュラムの整備・取組が進められていますか。(「地域を生かす」)	3.1	3.3	−0.2▼
②　自然、文化、伝統、施設等を活かしたカリキュラムの整備・取組が進められていますか。(「地域を学ぶ」)	3.1	3.3	−0.2▼
③　子どもと地域の人が共に学ぶカリキュラムの整備・取組が進められていますか。(「地域と学ぶ」)	3.0	3.1	−0.1▼
④　地域に参画・貢献するカリキュラムの整備・取組が進められていますか。(「地域に還す」)	3.0	3.1	−0.1▼
2　学校・家庭・地域による各種連携活動(教育課程外の活動)の取組	3.0	3.1	−0.1▼
①　保護者や地域による学校支援等(含む、小学校での放課後子ども教室)の取組が進められていますか。	3.0	－	－

② 子どもによる地域行事への参加・参画等の取組が進められていますか。	3.0	3.1	−0.1▼
③ 学校と保護者・地域の三者による協働の取組が進められていますか。	3.0	−	−
3 地域に開かれた学校情報	3.2	3.2	0.0
① 学校は、地域の行事や活動等を子どもに知らせる環境を整備していますか。	3.2	3.2	0.0
② 学校は、教育情報を保護者・地域へ発信していますか。	3.3	3.3	0.0
③ 学校運営協議会は、協議の内容等を保護者や地域、教職員へ発信していますか。	3.1	3.1	0.0
④ 学校は、学校関係者評価結果等を保護者や学校運営協議会委員へ発信していますか	3.2	3.2	0.0
Ⅲ コミュニティ・スクールによる成果	R1年度後期	H30年度後期	前回との差
1 学校経営・運営の進捗状況	3.0	3.1	−0.1▼
① 学校の考え・方針を家庭・地域に浸透させることにつながっていますか。	3.0	3.1	−0.1▼
② 学校を支援・応援する声・提言・行動の増加につながっていますか。	3.0	3.1	−0.1▼
③ 学校の教育活動の活性化につながっていますか。	3.1	3.2	−0.1▼
2 子どもの育ちの状況	2.9	3.0	−0.1▼
① 学力向上につながっていますか。	2.9	3.1	−0.2▼
② 体力向上につながっていますか。	2.8	3.0	−0.2▼
③ 市民性の育成(地域に対する関心、地域情報に対する関心)につながっていますか。	3.0	3.1	−0.1▼
④ 問題行動等の解消につながっていますか。	2.7	2.9	−0.2▼
3 保護者の子ども・学校・地域等への関心の状況	2.8	3.0	−0.2▼
① 基本的生活習慣づくりに対する保護者の関心につながっていますか。	2.9	3.0	−0.1▼
② 家庭学習の習慣形成に対する保護者の関心につながっていますか。	2.9	3.0	−0.1▼
③ 学校以外での子どもの学びや体験・交流の場づくりへの保護者の関心につながっていますか。	2.8	3.1	−0.3▼
④ 地域の行事や活動等への子どもの参加を保護者が促すことにつながっていますか。	2.9	3.1	−0.2▼
⑤ 保護者の自治会等地域行事等への参加促進につながっていますか。	2.7	2.9	−0.2▼
全体平均	3.0	3.1	−0.1▼
標準偏差	0.207	0.154	

(2) 中学校

4段階評価[4：そう思う　3：概ねそう思う　2：あまりそうは思わない　1：思わない]

Ⅰ　共育文化醸成の進捗状況	R2年度後期	R1年度後期	前回との差
1　コミュニティ・スクールの組織と運営	3.0	3.2	−0.2▼
①　学校運営協議会での協議や熟議は充実していますか。	3.2	3.5	−0.3▼
②　学校運営協議会に子どもたちが参加していますか。	2.8	2.9	−0.1▼
③　実働推進組織や支援組織等による取組は進んでいますか。	3.0	3.4	−0.4▼
2　学校の目標・課題の四者による共有化	3.0	3.2	−0.2▼
①　学校運営協議会で学校の教育目標や経営の基本方針、課題等を共有できていますか。	3.2	3.4	−0.2▼
②　子どもたちは、めざす子どもの姿を知っていますか。	2.9	3.3	−0.4▼
③　教職員と学校の教育目標や経営の基本方針、課題等を共有できていますか。	3.1	3.3	−0.2▼
④　保護者と学校の教育目標や経営の基本方針、課題等を共有できていますか。	2.8	2.9	−0.1▼
⑤　自治会(地域)と学校の教育目標や経営の基本方針、課題等を共有できていますか。	3.0	3.3	−0.3▼
3　学校と保護者・地域住民との双方向の関係構築	3.4	3.4	0.0
①　地域は、学校の教育活動に協力的ですか。	3.4	3.4	0.0
②　保護者(ＰＴＡ)は、学校の教育活動に協力的ですか 。	3.4	3.4	0.0
③　管理職や教職員は、地域の行事や活動等に協力的ですか 。	3.3	3.5	−0.2▼
④　地域コーディネーターは、学校と地域とのつなぎ役になっていますか 。(地域ＣＤ配置校のみ)	3.3	3.5	−0.2▼
4　コミュニティ・スクールの認知	3.0	3.2	−0.2▼
①　ＣＳの目的や仕組み、取組について、教職員へ周知されていますか。	3.2	3.3	−0.1▼
②　ＣＳの目的や仕組み、取組について、子どもへ周知されていますか。	2.9	3.3	−0.4▼
③　ＣＳの目的や仕組み、取組について、保護者へ周知されていますか。	2.9	3.0	−0.1▼
④　ＣＳの目的や仕組み、取組について、地域・市民(保護者以外)へ周知されていますか。	2.8	3.0	−0.2▼
Ⅱ　開かれた教育活動等の進捗状状況			
1　地域連携カリキュラム(教育課程内の活動)の整備・取組	3.0	3.3	−0.3▼
①　外部人材を活かしたカリキュラムの整備・取組が進められていますか。(「地域を生かす」)	3.0	3.4	−0.4▼
②　自然、文化、伝統、施設等を活かしたカリキュラムの整備・取組が進められていますか。(「地域を学ぶ」)	2.9	3.3	−0.4▼
③　子どもと地域の人が共に学ぶカリキュラムの整備・取組が進められていますか。(「地域と学ぶ」)	3.0	3.3	−0.3▼
④　地域に参画・貢献するカリキュラムの整備・取組が進められていますか。(「地域に還す」)	3.1	3.4	−0.3▼
2　学校・家庭・地域による各種連携活動(教育課程外の活動)の取組	3.1	3.5	−0.4▼
①　保護者や地域による学校支援等(含む、小学校での放課後子ども教室)の取組が進められていますか。	2.9	－	－
②　子どもによる地域行事への参加・参画等の取組が進められていますか。	3.3	3.5	−0.2▼

③　学校と保護者・地域の三者による協働の取組が進められていますか。	3.1	－	－
3　地域に開かれた学校情報	3.3	3.3	0.0
①　学校は、地域の行事や活動等を子どもに知らせる環境を整備していますか。	3.4	3.3	0.1△
②　学校は、教育情報を保護者・地域へ発信していますか。	3.4	3.4	0.0
③　学校運営協議会は、協議の内容等を保護者や地域、教職員へ発信していますか。	3.1	3.2	-0.1▼
④　学校は、学校関係者評価結果等を保護者や学校運営協議会委員へ発信していますか。	3.2	3.3	-0.1▼

4段階評価[4：そう思う　3：概ねそう思う　2：あまりそうは思わない　1：思わない]

Ⅲ　コミュニティ・スクールによる成果	R1年度後期	H30年度後期	前回との差
1　学校経営・運営の進捗状況	3.0	3.2	-0.2▼
①　学校の考え・方針を家庭・地域に浸透させることにつながっていますか。	3.0	3.2	-0.2▼
②　学校を支援・応援する声・提言・行動の増加につながっていますか。	3.0	3.1	-0.1▼
③　学校の教育活動の活性化につながっていますか。	3.1	3.2	-0.1▼
2　子どもの育ちの状況	2.9	3.1	-0.2▼
①　学力向上につながっていますか。	2.9	3.1	-0.2▼
②　体力向上につながっていますか。	2.7	3.1	-0.4▼
③　市民性の育成(地域に対する関心、地域情報に対する関心)につながっていますか。	3.1	3.3	-0.2▼
④　問題行動等の解消につながっていますか。	3.0	3.0	0.0
3　保護者の子ども・学校・地域等への関心の状況	2.9	3.1	-0.2▼
①　基本的生活習慣づくりに対する保護者の関心につながっていますか。	2.9	3.0	-0.1▼
②　家庭学習の習慣形成に対する保護者の関心につながっていますか。	2.8	3.0	-0.2▼
③　学校以外での子どもの学びや体験・交流の場づくりへの保護者の関心につながっていますか。	2.9	3.2	-0.3▼
④　地域の行事や活動等への子どもの参加を保護者が促すことにつながっていますか。	2.9	3.2	-0.3▼
⑤　保護者の自治会等地域行事等への参加促進につながっていますか。	2.8	2.9	-0.1▼
全体評価	3.0	3.3	-0.3▼
標準偏差	0.196	0.183	

5　評価結果の考察

(1) 評価結果から見られる全体的傾向

①　新型コロナ感染拡大防止のため、令和2年度(39評価小項目)のほぼ全ての小項目の評価数値が令和元年度(43評価小項目)と比較すると、小学校、中学校ともに低下した。全体平均も小学校は3．1ポイントから3．0ポイントへ、中学校は3．3ポイントから3．0ポイントに低下した。また、標準偏差の変化を見ると小学校では、0．154から0．207へ、中学校では0．183から0．196へと変化し、小中学校ともに評価小項目のバラツキが大きくなっている。

②　令和元年度から令和2年度間の39評価小項目における上位グループ群への上昇状況を見ると、小学校では中位群から上位群へ上昇した項目は、Ⅰ－2－①「学校運営協議会での教育目標や課題等の共有」、Ⅰ－2－③「教職員との教育目標や課題等の共有」、Ⅰ－3－②「保護者の教育活動への協力」、Ⅰ－4－①「CS の教職員への周知」、Ⅱ－3－①「学校の地域情報発信の環境整備」、Ⅱ－3－④「学校関係者評価結果等の発信」の6項目である。下位群から中位群へ上昇した項目は、Ⅰ－4－③「CSの保護者への周知」の1項目である。

　中学校では中位群から上位群へ上昇した項目は、Ⅰ－2－①「学校運営協議会での教育目標や課題等の共有」、Ⅰ－3－①「地域の教育活動への協力」、Ⅰ－3－②「保護者の教育活動への協力」、Ⅰ－4－①「CS の教職員への周知」、Ⅱ－3－①「学校の地域情報発信の環境整備」、Ⅱ－3－②「学校の教育情報の発信」、Ⅱ－3－④「学校関係者評価結果等の発信」の7項目である。下位群から中位群へ上昇した項目は、Ⅰ－4－③「CS の保護者への周知」、Ⅲ－1－②「学校を応援する声等の増加」、Ⅲ－2－①「学力向上」、Ⅲ－2－④「問題行動等の解消」、Ⅲ－3－①「基本的生活習慣づくりの保護者への関心」の5項目である。

　下位グループ群への下降状況を見ると、小学校では上位群から中位群へ下降した項目は、Ⅰ－1－①「学校運営協議会での熟議の充実」、Ⅱ－1－①「外部人材を生かしたカリキュラムの取組」、Ⅱ－1－②「自然、文化等を活かしたカリキュラムの取組」の3項目である。中位群から下位群へ下降した項目は、Ⅰ－1－②「学校運営協議会への子どもの参加」、Ⅲ－2－②「体力向上」、Ⅲ－3－③「学校外での子どもの学びや体験等への保護者の関心」3項目である。

　中学校では上位群から中位群へ下降した項目及び中位群から下位群へ下降した項目はない。

③　令和2年度から新しく設けた2つの評価小項目、Ⅱ－2－①「保護者や地域の学校支援」、Ⅱ－2－③「三者による協働の取組」は、小学校、中学校ともに中位群に分布している。

①②③の結果から

◆　新型コロナの影響が大きい1年間ではあったが、小中学校ともに全体平均が3．0ポイントの評価が得られた。

◆　令和2年度は、令和元年度に比べ評価小項目の多くの小項目でポイントが低下している(39の評価小項目中、小学校は27項目で低下、中学校は32項目で低下)。

◆　評価小項目のポイントが上昇した小項目は、小学校ではⅠ－3－②「保護者の教育活動への協力」、中学校ではⅡ－3－①「学校の地域情報発信の環境整備」のそれぞれ1項目のみであり、上昇幅は0．1である。

◆　小中学校ともに標準偏差の値が(小学校0．157→0．207、中学校0．183→0．196)増加していることから、評価小項目間のバラツキが大きくなっている。

◆　評価小項目の3つのグループ群は、「全体平均±標準偏差」で上位群、中位群、下位群を決定しているが、令和2年度の標準偏差の値が大きいことから、令和2年度の評価小項目の数値が令和元年度に比べて同じあるいは低下していても上位群や中位群に位置した小項目がある。

◆　特に数値の低下が著しい評価小項目は、小学校ではⅠ－1－②「学校運営協議会への子どもの参加」が－0．7ポイントである。中学校では、0．5ポイント以上低下している評価小項目はない。

(2)　大項目の評価項目ごとに見た傾向

【Ⅰ　共育文化醸成の進捗状況】

Ⅰ－1「コミュニティ・スクールの組織と運営」小学校2．8、中学校3．0。

Ⅰ－2「学校の目標・課題の四者による共有化」小学校3．0、中学校3．0。

Ⅰ－3「学校と保護者・地域住民との双方向の関係構築」小学校3．3、中学校3．4。

Ⅰ－4「コミュニティ・スクールの認知」小学校2．9、中学校3．0。

前年度と比べると、小学校では4つ全ての中項目で数値が低下している。中学校では3つの中項目の数値が低下している。

小中学校ともにⅠ－3「学校と保護者・地域住民との双方向の関係構築」の評価小項目は全ての項目が3．2ポイントを上回る上位群に分布し、コロナ禍であっても双方向の関係構築が進んでいることが窺える。特に、Ⅰ－3－④「地域コーディネーターの学校と地域のつなぎ役」のポイントが高く、令和2年度に17校に配置した地域コーディネーターが学校と地域のつなぎの役割を果たしていることが分かり、令和3年度には市内全小中学校18校への配置が完了するのでより一層の共育文化醸成が進むことを期待している。

しかし、Ⅰ－1－②「学校運営協議会への子どもの参加」、Ⅰ－2－④「保護者と教育目標や課題の共有」、Ⅰ－4－④「CS の地域市民への周知状況」の3つの評価小項目が小中学校ともに下位群に分布し、課題と捉えている。ただし、Ⅰ－4－③「CSの保護者への周知状況」の小項目は下位群から中位群に上昇し改善の兆しが見られる。

【Ⅱ　開かれた教育活動等の進捗状況】

Ⅱ－1「連携カリキュラム(教育課程内の活動)の整備・取組」

小学校3．1、中学校3．0。

Ⅱ－2「学校・家庭・地域による各種連携活動(教育課程外の活動)の取組」

小学校3．0、中学校3．1。

Ⅱ－3「地域に開かれた学校情報」小学校3．2、中学校3．3。

評価小項目別に見ても小学校は全11小項目が3．0ポイントを上回っている。中学校も2つの評価小項目が2．9ポイントではあるが、残り9つの評価小項目は3．0ポイントを上回っている。開かれた教育活動等が確実に進んでいることが窺われる。特に、評価小項目Ⅱ－3－①「学校の地域情報発信の環境整備」、Ⅱ－3－②「学校の教育情報の発信」、Ⅱ－3－④「学校関係者評価結果等の発信」は小中学校ともに、3．2ポイントを上回っており、地域に開かれた教育情報の発信が進んでいることが窺われる。

【Ⅲ　コミュニティ・スクールによる成果】

Ⅲ－1「学校経営・運営の進捗状況」小学校3．0、中学校3．0。

Ⅲ－2「子どもの育ちの状況」小学校2．9、中学校2．9。

Ⅲ－3「保護者の子ども・学校・地域等への関心の状況」小学校2．8、中学校2．9。

中項目の平均が昨年度より0．1～0．2ポイント低下している。

評価小項目別に見ると、小中学校ともに、Ⅲ－2－②「体力向上」、Ⅲ－3－④「保護者の自治会等地域行事の参加促進」の小項目が下位群グループに分布し、課題と捉えている。小学校では、Ⅲ－2－④「問題行動等の解消」が2．7、Ⅲ－3－③「学校外での子どもの学びや体験等への保護者の関心」が2．8であり下位群グループに位置している。中学校では、Ⅲ－3－②「家庭学習習慣形成に対する保護者への関心」が2．8であり下位グループに位置している。

以上大項目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの結果から、評価中項目ごとに見た傾向は、前年度評価結果と比べると低い状況にあると言える。これは、新型コロナ感染防止による活動等の中止や規模の縮小などが大きく影響したものと判断する。

6　今後のコミュニティ・スクール充実発展に向けて

コロナの影響が令和3年度も継続することが予測されるが、令和2年度の経験を踏まえ、感染防止に十分に配慮した上で、各学校、各学校運営協議会で知恵を出し合い創意工夫のある活動や取組が展開されることを期待している。その際、コミュニティ・スクールの成果を意識した見通しをもった取組の充実も求められるところである。

令和3年度は、『コミュニティ・スクールの歩みを進める』を合い言葉に、以下の4項目を重点的取組とする。各学校においては自校の取組の特徴及び評価結果を踏まえ、令和3年度の評価小項目の達成目標値を設定し、取組の改善に努めるものとする。

①熟議を通した学校運営協議会の充実

熟議題の事前周知と熟議に必要な資料等の準備を前提に、学校運営協議会において、学校・家庭・地域が課題を共有し、課題解決の方策や課題解決の見通しが明らかになるように熟議の在り方を工夫する。また、積極的に児童生徒の参加を促したり、感染防止に配慮し、フィジカルディスタンスの確保やリモートでの開催等も工夫すること。

②学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進とコミュニティ・スクールによる成果を意識した取組の充実

令和3年度から中学校においても学習指導要領が完全実施される。各学校で育成すべき資質能力を明確にして教育活動を推進することが強調されている。コミュニティ・スクール17年を迎える春日市では、学校運営協議会と地域学校協働本部との一体的推進を円滑に進めると同時に、コミュニティ・スクールによる取組の成果、評価中項目のⅢ－2「学力向上、体力向上、市民性の育成、問題行動等の解消」及び評価中項目のⅢ－3「保護者の子ども・学校・地域等への関心」の醸成等をめざし取組の充実を図ることが大切である。

③地域学校協働活動(地域連携カリキュラムと教育課程外の各種連携活動)の整備・取組の充実

これまで作成・実践してきた地域連携カリキュラム等の成果と課題を「子どもの市民性の育ちや新学習指導要領改訂の趣旨等」の観点から検証し見直すとともに、必要に応じて新たな地域連携カリキュラムの単元開発や活動等の組み替え等を柔軟に行う。

令和3年度から市内18校全ての学校に、地域コーディネーターが配置される。各学校においては、地域連携カリキュラム等が円滑に、より効率的・効果的に推進されるように、地域コーディネーターと各学年等の打ち合わせを充実させ、機動的にカリキュラム・マネジメントを推進すること。また、地域コーディネーターの配置を保護者や地域住民へ周知するとともに、校務分掌にも明確に位置付け有効活用を図ること。

④コミュニティ・スクールの目的や仕組み、活動等の認識の強化・拡大

コミュニティ・スクールの組織と運営に関しては、学校運営協議会と地域学校協働本部の目的や仕組み、役割等を明確にして取組を進めること。市民性の育成や保護者の関心の状況等をＰＤＣＡサイクルで検証するとともに、学校運営協議会の協議内容の情報や地域学校協働活動への取組の様子、CS 進捗状況評価結果等をコミュニティ通信や学校通信等で繰り返し発信すること。保護者や地域住民に電子申請によるCS 進捗状況評価にかかわっていただいたり、CS 報告会等を開催したりしてコミュニティ・スクールの認識の強化・拡大に努めること。また、読書ボランティアや学習支援等、教育課程内外の活動へのボランティア協力等に努めること。

第６　教育委員から出された主な意見

点検評価報告書の事務局案について教育委員と事務局で協議をする中で、教育委員から出された主な意見は以下のとおりです。

ページ	教育委員から出された主な意見
11ページ	いじめについて、解決した案件等の報告が漏れていることがあり、学校間で定義の認識にずれがあるのではないかとのことであった。解決した案件等の報告が漏れているのであれば、定義の共通理解が必要ということではなく、報告の仕方に問題があるのではないか。（※表現を変更しました。）
12ページ	不登校者数が減少したとあるが、どのくらい減少したのかという数値は記載しないのか。令和元年度の不登校者数と令和2年度の不登校者数を比較してどのくらい減少したか、具体的に数値を乗せるとより分かりやすいと思う。（※不登校者数の記載をしました。）
13ページ	特別支援の充実について、令和2年度の成果と課題に「特別支援教育支援員の適正な配置」は達成と記載されているが、それに対する成果と課題では教員の適正配置の要望とある。要望しなくてはいけない状況であるのに達成としてもいいのか。（※教員の適正配置は県教育委員会の業務であり、当初計画の項目は達成しているため「4」としました。）
14ページ	ハラスメントに関する規定も制定されたので、全協員にハラスメントに対する認識を正しく持ってほしい。若年教員が精神的に負担を感じることで休職や退職に繋がりかねないので、若年教員を育てる環境を整えてほしい。
19ページ	交通安全教室では自転車の乗り方の講習も行っているとのことであるが、小中学生の自転車の乗り方に不安を感じる時がある。これからも継続して行ってほしい。
21ページ	社会教育関係は新型コロナウイルス感染症の影響で開催できないことが多かったと思うが、成果を見ると達成できた項目も多くあるため、少し点数を上げても良いのではないか。（※未だ課題がある項目は、達成度を「3」としています。）
22ページ	コミュニティ・スクールの推進の令和2年度の成果と課題の欄に、「熟議の実施により協議がなされ、充実を図ることができた」との記載があるが、それに関する課題で「新型コロナウイルス感染症の影響により実施することができなかった」とある。達成されたことなのにできなかったと記載があるのは繋がりが悪く感じる。（※表現を変更しました。）
23ページ	地域コーディネーター配置校が拡大されているが、地域コーディネーターがどのような活動をしているのか基準が曖昧で分かりにくく感じる。地域コーディネーターの活動内容を記載したものが全学校分あるといいと思う。
25ページ	眠育教育の項目について、令和２年度の成果と課題の欄に「小学生では22時より前に就寝する割合が令和元年度と比べ6.9%増えた」との記載がある。令和元年度はどのくらいの割合だったのか比較ができた方がより分かりやすいと思う。（※令和元年度と令和2年度の数値を記載しました。）
26ページ	放課後子供教室の令和2年度の成果と課題に、地域人材の確保が必要であるとの記載がある。しかし、評価は「4」となっていることが疑問に感じる。35地区全部に配置されておらず、人材を確保できることが望ましいのではないか。（※コロナ禍であっても放課後子供教室を実施できたことにより達成度を「4」としてします。また、表現を変更しました。）
38ページ	令和2年度の成果と課題について、ボランティアが高齢課・固定化しているため、新たなボランティアの育成の検討が必要であるとの記載がある。この部分については、令和3年度の取組に入れても良いのではないか。（※令和3年度の取組状況に記載しました。）
39ページ	現在春日市には通級指導教室がいきいきプラザに1つしかなく、通級指導教室を利用したくとも距離等の問題で利用できない児童生徒もいる。学校にいながら通級指導が受けられるようになればいいと思う。

第７　学識経験者意見

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項において、点検評価を行うに当たっては教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされています。今回の点検評価においては、福岡女学院大学　学長　伊藤　文一　氏から以下のとおり意見を聴取しました。

点検評価報告書に対する意見

「チーム春日市教育委員会」として、扇教育長の下、一丸となって「令和2年度エデユケーションかすが」に基づく点検評価、及び「令和2年度コミュニティ・スクール進捗状況評価」に精力的に取り組まれました。また、ＰＤＣＡサイクルの（ＣＨＥＣＫ）に位置付けられ、きめ細やかに推進されました。新型コロナウイルス感染対策への対応、スクール・サポートスタッフの配置等については、迅速な対応をなされました。「すべては子供たちのために」が可視化されています。今後も、これまで同様、一つ一つ課題を解決していかれることを望んでおります。

【学校教育の充実】

確かな学力の向上、特別支援教育の充実、新学習指導要領への対応、安心して学び、暮らせる環境の整備等は、十分な成果が見られるようです。大変なご苦労とご努力によるものと推察されます。特に、全児童生徒に一人一台のタブレット端末の配布、ＩＣＴ環境を整えるなど、本市の教育への思いが形になったものと思われます。一方で、いじめの防止、不登校児童生徒の支援等、少し課題はあるように思われますが、着実に各学校が、チーム学校として、機能していることが学校を訪問してもよくわかります。

【社会教育・学びの推進・充実】

コミュニティ・スクールの推進は、十分な成果が見られたとの自己評価でございます。

特に、地域コーディネーターの拡大は大きな成果を生むものと思われます。

【文化財の保護・教育資産としての活用促進】

文化財等の周知については、十分な成果がみられ、遺跡、文化財活用の促進については、一定の成果がみられるとのことです。これはこれまでのご努力の成果であると判断されます。

【教育環境づくりの推進】

コミュニティ・スクールとしての取り組みが、学校、家庭、地域社会に浸透していき、春日市への誇り、愛着ができてきているように思われます。

＊　今後は、社会人基礎力（前に踏み出す力（アクション）、考え抜く力（シンキング）、チームで働く力（チームワーク））に当たるような力を身に付けさせる必要があるように思われます。すなわち、失敗してもやってみる力、疑問を持ち考え抜く力、多様な人々とチームを組んで働く力、これは、できるだけ、低学年から育てていく必要があるように考えます。

資料（令和２年度春日市教育委員会の活動状況）

1　教育委員会の構成（教育長及び教育委員会委員）

（1）令和3年3月31日現在

区分	氏名	任期	保護者	備考
教育長	（おおぎ　ひろゆき） 扇　弘行	令和2年4月1日～令和5年3月31日		1期目
教育長職務代理者	（うおや　けいこ） 魚屋　けい子	平成30年12月21日～令和4年12月20日		1期目
委員	（たに　やすひろ） 谷　康浩	令和元年5月17日～令和3年12月22日	○	1期目
委員	（やすもと　せいいち） 安本　誠一	令和元年6月29日～令和5年6月28日		1期目
委員	（そめはら　れいこ） 染原　レイ子	令和2年6月29日～令和6年6月28日		1期目

（2）令和2年度に退任された委員

区分	氏名	任期	保護者	備考
委員	（いのうえ　よしこ） 井上　佳子	平成29年6月29日～令和2年6月28日		1期目

2　教育委員会の会議の開催状況

（1）開催回数　　定例会12回　臨時会2回

（2）教育委員会付議議案

開催番号	実施日	議案番号	議案名	議決結果
第1回（定例会）	令和2年4月24日（金）	第1号議案	社会教育委員の解嘱について	可決
		第2号議案	令和2年度教育費補正予算に関する意見の申出について	可決
第2回（臨時会）	令和2年5月15日（金）		議案なし（報告事項のみ）	
第3回（定例会）	令和2年5月29日（金）	第3号議案	社会教育委員の委嘱について	可決
		報告第1号	臨時代理について（市長等の損害賠償責任の一部免責に関する条例の制定に関する意見の申出について）	承認
		報告第2号	臨時代理について（春日市職員の服務の宣誓に関する条例の一部を改正する条例の制定に関する意見の申出について）	承認

		報告第3号	臨時代理について(財産の取得に関する意見の申出について)	承認
		報告第4号	臨時代理について(財産の取得に関する意見の申出について)	承認
第4回(定例会)	令和2年6月30日(火)	第4号議案	春日市民図書館管理運営規則の一部を改正する規則の制定について	可決
第5回(定例会)	令和2年7月29日(水)	第5号議案	令和3年度に小学校において使用する教科用図書の採択について	可決
		第6号議案	令和3年度に中学校において使用する教科用図書の採択について	可決
		第7号議案	春日市就学援助規則の一部を改正する規則の制定について	可決
		第8号議案	令和2年度教育費補正予算に関する意見の申出について	可決
		第9号議案	春日市立小中学校働き方改革推進研究会設置要綱の一部を改正する告示の制定について	可決
第6回(定例会)	令和2年8月25日(火)		議案なし(報告事項のみ)	
第7回(定例会)	令和2年9月25日(金)	第10号議案	春日市地区公民館等設置条例施行規則の一部を改正する規則の制定について	可決
		第11号議案	春日市学校開放施設の使用に係る使用者登録に関する要綱の制定について	可決
		報告第5号	臨時代理について(財産の取得に関する意見の申出について)	承認
第8回(定例会)	令和2年10月30日(金)	第12号議案	令和2年度教育費補正予算に関する意見の申出について	可決
		第13号議案	令和元年度教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に係る点検及び評価について	可決
		報告第6号	臨時代理について(令和2年度教育費補正予算に関する意見の申出について)	承認
		報告第7号	臨時代理について(財産の取得に関する意見の申出について)	承認
		報告第8号	臨時代理について(財産の取得に関する意見の申出について)	承認
第9回(定例会)	令和2年11月27日(金)	第14号議案	令和3年度教育費予算に関する意見の申出について	可決
		第15号議案	令和2年度教育費補正予算に関する意見の申出について	可決
第10回(定例会)	令和2年12月18日(金)	第16号議案	春日市教育支援センター管理運営規則の一部を改正する規則の制定について	可決
		第17号議案	春日市通級指導教室設置要綱の一部を改正する告示の制定について	可決
第11回(定例会)	令和3年1月22日(金)	第18号議案	春日市職員定数条例の一部を改正する条例の制定に関する意見の申出について	可決
		第19号議案	令和2年度教育費補正予算に関する意見の申出について	可決
		第20号議案	財産の取得に関する意見の申出について	可決
		第21号議案	春日市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する協議について	可決
		第22号議案	春日市教育振興基本計画(令和3年度～令和7年度)の策定について	可決
第12回(定例会)	令和3年2月16日(火)	第23号議案	春日市指定文化財の指定について	可決
		第24号議案	春日市のぼり窯体験広場管理運営規則の一部を改正する規則の制定について	可決
		第25号議案	春日市奴国の丘歴史資料館名誉館長設置要綱の制定について	可決
		第26号議案	春日市立学校管理運営規則の一部を改正する規則の制定について	可決
		第27号議案	「令和3年度エデュケーションかすが」の作成について	可決
		第28号議案	学校長への事務の委任等に関する規程の一部を改正する告示の制定について	可決

第13回(臨時会)	令和3年3月24日(水)	第29号議案	令和3年度県費負担教職員の人事異動に関する内申について	可決
第14回(定例会)	令和3年3月26日(金)	第30号議案	春日市教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則の制定について	可決
		第31号議案	春日市立学校におけるハラスメントの防止等に関する規程の制定について	修正可決
		第32号議案	春日市教育委員会後援等に関する要綱の一部を改正する告示の制定について	可決
		第33号議案	社会教育委員の解嘱について	可決

3　教育委員懇談会の開催状況

(1) 趣旨

教育委員懇談会は、教育委員会議の活性化への取組として平成22年度から実施しており、教育委員会事務局が抱えている諸課題や新規に取り組む施策等に関する現状認識、意見交換及び政策案の検討を目的とし、教育委員会委員と教育委員会事務局その他の関係者が一堂に会し、今後の方針及び方向性について協議する場です。

(2) 実施内容

実施日	議題	主な参加者(委員除く)	場所
令和2年7月10日(金)	第1次実施計画要求について	教育委員会各課、地域づくり課、子育て支援課	市役所407会議室
令和2年8月7日(金)	教育大綱及び教育振興基本計画の策定に向けた課題整理について	教育委員会各課	市役所議会棟全員協議会室
令和2年9月25日(金)	春日市教育大綱の素案について 子ども発達支援室における事務の補助執行について	教育委員会各課	市役所407会議室
令和2年10月2日(金)	令和元年度事務事業点検評価について	教育委員会各課、福岡女学院大学副学長	市役所407会議室
令和2年11月27日(金)	春日市教育振興基本計画(令和3年度～令和7年度)の策定について	教育委員会各課	市役所議会棟全員協議会室
令和2年12月25日(金)	春日市教育振興基本計画(令和3年度～令和7年度)の策定について	教育委員会各課	市役所407会議室
令和3年1月22日(金)	令和3年度エデュケーションかすがの作成について	教育委員会各課	市役所議会棟全員協議会室

4　春日市総合教育会議の開催状況

(1) 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第1条の4の規定に基づき、平成27年度から市長と教育委員会を構成員とする春日市総合教育会議が設置されました。この会議を通して、市長と教育委員会が円滑に意思疎通を図り、本市の教育課題や方針の目標等を共有しながら、同じ方向性のもと、連携して効果的な教育行政を推進します。

(2) 実施内容

実施日	協議事項	場所
令和2年10月23日(金)	春日市教育大綱について	市役所議会棟全員協議会室
	その他市長事務部局と教育委員会事務局の連携について	